

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	国語	科目	論理国語
学年・類型	2学年・全	単位数	2
教科書	精選論理国語（三省堂）（15 三省堂 論国703）		
副教材	新訂総合国語便覧 現代文単語 核心漢字+語彙 宅習用問題集		
科目目標	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況の評価する問題を出題） ②現代文単語・漢字テスト ③授業への取組状況（授業でやったワークシートを定期的に提出）	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②現代文単語テスト ③課題の内容 ④授業への取組状況	①課題やノートへの取組状況や提出状況 ②授業への取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	論理力と思考力	☐ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要旨を把握している。	☐ 進んで文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開を的確に捉えて要旨を把握し、文章の内容について説明したり話し合ったりしようとしている。	知① ③ 思① ③④ 主②
	ネット上の発言の劣化について	☐ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために、必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	☐ 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて、自分の考えを広げたり深めたりしている。	☐ 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、複数の文章や資料を基に自分の考えを広げ、論証したり討論したりしようとしている。	知① ②③ 思① ③④ 主②
	世代間倫理としての環境倫理学	☐ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	☐ 進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、文章の内容や構成を的確に捉え、調べた成果を発表しようとしている。	知① ②③ 思① ②③ ④ 主①
	言葉がつくる女と男	☐ 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。	☐ 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	☐ 進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習課題に沿って、関連する文章の書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深め、比較して論じようとしている。	知① ②③ 思① ②③ ④ 主①
2 学 期	病と科学	☐ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	☐ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。	☐ 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら主張を支える適切な根拠をそろえ、調べたことを整理して論述しようとしている。	知① ③ 思① ③④ 主②

	ゲノム編集とiPS細胞	☐ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	☐ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。	☐ 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら主張を支える適切な根拠をそろえ、調べたことを整理して論述しようとしている。	知① ③ 思① ③④ 主②
	ミロのヴィーナス	☐ 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	☐ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。	☐ 進んで主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深め、学習の見通しをもって、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直し、考察した内容をまとめようとしている。	知① ②③ 思① ②③ ④ 主①
	「なぜ」に答えられない科学	☐ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	☐ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	☐ 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論述しようとしている。	知① ②③ 思① ②③ ④ 主①
3 学期	「である」ことと「する」こと	☐ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	☐ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	☐ 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論証したり討論したりしようとしている。	知① ②③ 思① ②③ ④ 主①

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	文学国語
学年・類型	2 学年・全	単位数	2
教科書	文学国語（桐原書店）（212 桐原 文国 711）		
副教材	国語総合便覧 現代文単語集 漢字単語帳 宅習用問題集		
科目目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②授業成果物（ワークシート等）	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②授業成果物（ワークシート等） ③課題の内容	①課題やノートへの取組状況や提出状況 ②自己評価や相互評価

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	感触 保坂和志	☐ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ☐ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	☐ 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ☐ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。	☐ 本教材から学習したことを踏まえ、効果的に言葉を用いながら、書き換えを創作しようとしている。	知 ①② 思 ①②③ 主 ①②
	山月記 中島敦	☐ 「山月記」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使用している。 ☐ 「山月記」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	☐ 翻案を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 ☐ 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。	☐ 本教材から学習したことを踏まえ、効果的に言葉を用いながら、翻案を創作しようとしている。	知 ①② 思 ①②③ 主 ①②
	古典作品を翻案する	☐ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	☐ 翻案を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 ☐ 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付	☐ 本教材から学習したことを踏まえ、効果的に言葉を用いながら、翻案を創作しようとしている。	知 ①② 思 ③ 主 ①②

			ける独創的な文章になるよう工夫している。		
	もののふの心ー言葉とコトバ 若松英輔	☐ 「コトバ」やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	☐ 「コトバ」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	☐ 「コトバ」についての自分の考えを、わかりやすくまとめようとしている。	知 ①② 思 ①②③ 主 ①②
	天景・猫 萩原朔太郎	☐ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ☐ 「天景・猫」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使用している。	☐ 「天景・猫」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	☐ 詩の内容を踏まえてそれぞれの詩の発想の独特さについて話し合い、自分の考えを深めようとしている。	知 ①② 思 ①②③ 主 ①②
2 学期	サーカス 中原中也	☐ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ☐ 「サーカス」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使用している。	☐ 「サーカス」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	☐ 詩の内容を踏まえてそれぞれの詩の発想の独特さについて話し合い、自分の考えを深めようとしている。	知 ①② 思 ①②③ 主 ①②
	こころ 夏目漱石	☐ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	☐ 「こころ」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	☐ 本文の内容を踏まえて疑問に思ったことなどについて話し合い、自分の考えを深めようとする。	知 ①② 思

3 学 期		☐ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	☐ 「こころ」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	している。	①②③ 主 ①②
	麦わら帽子のへこみ 穂村弘	☐ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ☐ 「麦わら帽子のへこみ」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	☐ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 ☐ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	☐ 本教材から学習したことを踏まえ、効果的に言葉を用いながら、批評文を書こうとしている。	知 ①② 思 ①②③ 主 ①②
	復讐 三島由紀夫	☐ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ☐ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	☐ 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ☐ 「復讐」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	☐ 本文の内容を踏まえて近藤家のその後について話し合い、自分の考えを深めようとしている。	知 ①② 思 ①②③ 主 ①②

餓鬼道としての詩 松浦寿輝		☐ 「餓鬼道としての詩」やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	☐ 「餓鬼道としての詩」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。	☐ 本教材から学習したことを踏まえ、効果的に言葉を用いながら、肴蔬目録を創作しようとしている。	知 ①② 思 ①②③ 主 ①②
日曜日はどこへ 川上未映子		☐ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ☐ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	☐ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 ☐ 「日曜日はどこへ」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	☐ 本文の内容を踏まえて「わたし」はこれからどのように生きていくと思うかについて話し合い、自分の考えを深めようとしている。	知 ①② 思 ①②③ 主 ①②

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	国語	科目	古典探究
学年・類型	2学年・全	単位数	2
教科書	高等学校 古典探究 古文編・漢文編（第一学習社）（183 第一 古探717）		
副教材	国語総合便覧 現代文単語集 宅習用問題集		
科目目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査(知識・技能の定着状況を評価する問題を出題) ②確認テスト(古文単語・漢文句形) ③授業成果物(ワークシート等)	①定期考査(思考・判断・表現について評価する問題を出題) ②授業成果物(ワークシート等)	①課題やノートへの取組状況や提出状況 ②自己評価や相互評価

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	古今著聞集 伊勢物語	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典の作品に表れている、修辞の特色について理解を深めている。 ☐ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、展開を的確に捉えている。 ☐ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	☐ 積極的に説話を読み、和歌を含んだ説話の特質について理解を深めようとしている。 ☐ 和歌の修辞について理解し、学習の見通しをもって調べたり発表しようとしていたりしている。	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②
	知音	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ☐ 古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 ☐ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を	☐ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ☐ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	☐ 故事成語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②

	深めている。			
方丈記	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ☐ 古典の作品に表れている、言葉の響きやリズムなどの表現の特色について理解を深めている。 ☐ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めている。 ☐ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ☐ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ☐ 必要に応じて書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ☐ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ☐ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ☐ 関心をもった事柄に関連する古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	☐ 作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ☐ 文体の歴史的背景をふまえて『方丈記』を読み、学習課題に沿って、表現の特色を評価しようとしている。	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②
雑説	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むた	☐ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	☐ 積極的に論説を読んで文章の展開を整理するとともに、比喩に	知 ①②③

		めに必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ☐ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ☐ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ☐ 古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ☐ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。	こめられた作者の考えを捉えようとしている。	思 ①② 主 ①②
2 学 期	枕草子	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ☐ 古典などを読むことを通して、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深め	☐ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ☐ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	☐ 随筆に表れたものの見方・考え方・美意識を理解し、積極的に自分の考えを伝え合おうとしている。 ☐ 学習の見通しをもって『枕草子』を読み、類集的章段・随想的章段・日記的章段があるという作品の特徴について、理解を深めようとしている。 ☐ 漢詩文と関わりのある章段を読	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②

	ている。 ☐ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。		み、我が国の文化と中国の文化との関係について、積極的に理解を深めようとしている。	
平家物語	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ☐ 古典の作品に表れている、言葉の響きやリズムなどの表現の特色について理解を深めている。 ☐ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ☐ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ☐ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	☐ 軍記物語を思想的背景・歴史的背景に注意しながら読み、積極的に自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 ☐ 文体の歴史的背景をふまえて『平家物語』を読み、学習の見通しをもって、和漢混淆文の特色について理解を深めようとしている。	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②
鴻門之会	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ☐ 古典を読むために必要な訓読の	☐ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ☐ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ☐ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自	☐ 各場面の展開を整理し、登場人物の言動から、それぞれの心情や性格を進んで捉えようとしている。	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②

		きまりについて理解を深めている。	然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。		
	源氏物語	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ☐ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	☐ 今までの学習を生かして長編物語をよみ、人物造形・心理描写・和歌の役割などに注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ☐ 内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を積極的に理解して、説明しようとしている。	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②
	中国の詩	☐ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ☐ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ☐ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ☐ 古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ☐ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ☐ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ☐ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	☐ 漢詩の表現や技法への理解を深めるとともに、作品にこめられた作者の思いを進んで読み取ろうとしている。	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②

3 学 期	蜻蛉日記	☐ 女性による日記文学の先駆となった作品を読んで、自己の内面を赤裸々に書き綴った心情描写に触れる。 ☐ 作品の成立背景や他作品との関係をふまえて、内容の解釈を深める。 ☐ 古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ☐ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ☐ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ☐ 文語のきまりについて理解を深める。	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ☐ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ☐ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②
	孟子 韓非子	☐ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ☐ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。	☐ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ☐ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ☐ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを	☐ 積極的に『孟子』を読み、孟子が政治に「仁義」を求める理由と、彼の「人性」に対する考えを説明しようとしている。 ☐ 積極的に『韓非子』を読み、韓非が主張する国を治めるための方策について説明しようとしている。	知 ①②③ 思 ①② 主 ①②

		☐ 古典を読むために必要な訓読の きまりについて理解を深めてい る。	広げたり深めたりしている。		
--	--	---	---------------	--	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理総合
学年・類型	2 年	単位数	2
教科書	地理総合（東京書籍）		
副教材	地理総合ワークノート（東京書籍）		
科目目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
学習方法	教科書・副教材を中心に、基本的な知識・技能を身に付ける。さらに地図や資料の読み取りと分析や活用、ペアワークやグループ活動などをおして、思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査	①定期考査 ②提出課題 ③授業中の取組	①提出課題 ②授業中の取組

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ① 知識・技能 40% ② 思考・判断・技能 40% ③ 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界	☐ 世界地図や地球儀、日本の位置や領域について理解する。	☐ 地球上の位置に関する事柄について、多面的・多角的に考察する。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	☐ 地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高める。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	知① 思① 思③ 主①
	第2章 地図や地理情報システムの役割	☐ 地図についての基本的な事柄を解し、その知識を身に付けている。 ☐ 地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りたり図表にまとめたりしている。	☐ ささまざまな地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。 ☐ ささまざまな統計数値を、適切な主題図で表現している。 ☐ GISを操作し、計測結果や主題図を表示している。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	☐ 紙の地図やGISに対する関心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴をとらえようとしている。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	知① 思① 思③ 主①
	第3章 資料から読み取る現代世界	☐ 交通・通信技術の発展と国境をこえたさまざまな結び付きについて基本的な事柄と追究の方法を理解しその知識を身に付けている。 ☐ 交通・通信手段や貿易構造の変化、世界の国家群の特徴について地図や図表の読み取りを通じて理解を深めている。 ☐ 交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情	☐ 交通・情報通信が国境をこえて結び付き、その結び付きがますます強固になっていることについて地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察しその過程や結果を適切に表現している。 ☐ 貿易や観光などにみられる国境をこえたモノや人の動きについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	☐ 交通・通信の発達による社会の変化と、それとともに起こるようになった諸問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結び付きが強まっていることに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	知① 思① 思③ 主①

		報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	☐ グローバル化の加速によって形成された地域経済圏や国家群について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	
2 学 期	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 1節「生活文化の多様性と国際理解」 2節「生活文化と自然環境①地形」 3節「生活文化と自然環境②気候」 4節「生活文化と産業」	☐ 世界にみられる多様な文化について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ☐ さまざまな産業とそれらの分布について基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ☐ 地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	☐ 文化の違いがなぜ生じるかということについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ☐ 世界各地で多様な地形や気候・植生がみられることについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ☐ さまざまな産業の特徴や産業立地、それらの変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ☐ 地域の文化や人々の暮らし、産業の違いを、それぞれの地域の自然環境との関連に着目しながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	☐ 文化の多様性と異なる文化の理解や共存に関して関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ さまざまな自然環境に対応した人々の生活や産業の工夫について関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 技術の発展やグローバル化などによってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	知① 思① 思② 思③ 主①

3 学 期	第2章 さまざまな地球的課題と国際協力 1節「地球環境問題」 2節「資源・エネルギー問題」 3節「人口問題」 4節「食料問題」 5節「居住・都市問題」 6節「民族問題」 7節「持続可能な社会の実現をめざして」	☐ さまざまな要因がからむ地球的な課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ☐ 地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	☐ 地球的な課題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	☐ 各国の社会状況にあった具体的な解決が求められる地球的な課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	知① 思① 思② 思③ 主①
	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節「日本の自然環境の特色」 2節「さまざまな自然災害と防災」	☐ 変化に富んだ日本列島の自然環境、大きな被害をもたらす自然災害について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ☐ 多発している日本列島の自然災害とその克服について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ☐ 地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	☐ 日本列島の地形や気候と自然災害について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ☐ 日本列島のさまざまな自然災害と防災対策について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	☐ 日本列島の豊かな自然環境と近年増大している自然災害に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 深刻な日本列島の自然災害と防災に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	知① 思① 思② 思③ 主①
	第2章 生活圏の調査と地域の展望	☐ 地域調査の手順や注意すべきことを理解している。 ☐ 地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	☐ 身近な地域の特徴を、設定したテーマに沿ってとらえ、明らかになったことを適切に表現している。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	☐ 身近な地域の特徴を明らかにするために、意欲的に地域調査に取り組もうとしている。 ☐ 本時の問いに「forms」で解答する。	知① 思① 思② 思③ 主①

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	地理歴史	科 目	歴史総合
学年・類型	2年	単位数	2
教科書	実教出版『詳述歴史総合』		
副教材	実教出版『詳述歴史総合マイノート』、帝国書院『明解歴史総合図説シンフォニア』		
科目目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
学習方法	教科書・副教材を中心に、基本的な知識・技能を身につける。さらに史料解釈・論述課題・ペアワークなどをおとして、思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して考察・説明し、歴史上で形成された課題を把握し、説明することができる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事情について主体的・積極的に学んでおり、よりよい社会の実現のために意見を積極的に提示、発表することができる。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②確認テスト	①定期考査 ②提出課題	①提出課題 ②振り返りシート

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ① 知識・技能 40% ② 思考・判断・技能 40% ③ 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1章 近代化への始動	☐ 18世紀頃のアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係，両地域における社会・文化に関する基本的な知識を身につけている。	☐ 18世紀頃のアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係，両地域における社会・文化に関する問いに対し，時代背景や史料に基づいて考え，表現している。	☐ 18世紀頃のアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係，両地域における社会・文化に関して学習を適切に振り返り，自らの考えを発表することができる。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	☐ 19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き，産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する基本的な知識を身につけている。	☐ 19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き，産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する問いに対し，時代背景や史料に基づいて考え，表現できている。	☐ 19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き，またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関して学習を適切に振り返り，学習改善しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第3章 アジアの変容と日本の近代化	☐ 19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する基本的な知識を身につけている。	☐ 19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する問いに対し，時代背景や史料に基づいて考え，表現できている。	☐ 19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関して学習を適切に振り返り，学習改善しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
2 学 期	第4章 帝国主義の時代	☐ 帝国主義の時代における欧米諸国とアジア・アフリカとの関係，アジア・日本での国民国家形成の動きに関する基本的な知識を身につけている。	☐ 帝国主義の時代における欧米諸国とアジア・アフリカとの関係，アジア・日本での国民国家形成の動きに関する問いに対し，時代背景や史料に基づいて考え，表現できている。	☐ 帝国主義の時代における欧米諸国とアジア・アフリカとの関係，アジア・日本での国民国家形成の動きに関して学習を適切に振り返り，学習改善しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	☐ 第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化，第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する基本的な知識を身につけている。	☐ 第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化，第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する問いに対し，時代背景や史料に基づいて考え，表現できている。	☐ 第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化，第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関して学習を適切に振り返り，学習改善しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第6章 経済危機と第二次世界大戦	☐ 世界恐慌をきっかけとした世界各国の政治的变化，第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する基本的な知識を身につけている。	☐ 世界恐慌をきっかけとした世界各国の政治的变化，第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する問いに対し，時代背景や史料に基づいて考え，表現できている。	☐ 世界恐慌をきっかけとした世界各国の政治的变化，第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関して学習を適切に振り返り，学習改善しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

3 学 期	第7章 冷戦と脱植民地化	☐ 冷戦下の世界における国際関係の変化，アジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する基本的な知識を身につけている。	☐ 冷戦下の世界における国際関係の変化，アジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する問いに対し，時代背景や史料に基づいて考え，表現できている。	☐ 冷戦下の世界における国際関係の変化，アジア・アフリカ諸国や日本の動きに関して学習を適切に振り返り，学習改善しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第8章 多極化する世界	☐ 石油危機をきっかけとした世界経済の変化，1970年代以降の世界の多極化の動きに関する基本的な知識を身につけている。	☐ 石油危機をきっかけとした世界経済の変化，1970年代以降の世界の多極化の動きに関する問いに対し，時代背景や史料に基づいて考え，表現できている。	☐ 石油危機をきっかけとした世界経済の変化，1970年代以降の世界の多極化の動きに関して学習を適切に振り返り，学習改善しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第9章 グローバル化と現代世界	☐ 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化，現在，世界が直面している課題に関する基本的な知識を身につけている。	☐ 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化，現在，世界が直面している課題に関する問いに対し，時代背景や史料に基づいて考え，表現できている。	☐ 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化，現在，世界が直面している課題に関して学習を適切に振り返り，学習改善しようとしている。	知② 思② 主① 主②

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	公民	科 目	政治・経済
学年・類型	2年	単位数	2
教科書	高等学校改訂版 政治・経済（第一学習社）		
副教材	最新政治経済資料集（第一学習社）		
科目目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。		
学習方法	教科書や副教材・マスメディアを通して、基礎的・基本的な知識を身に付け、習得した知識、概念を活用する力や課題を探究する力を課題探究学習やグループ学習で培う。そのような学習で政治や経済についての見方や考え方を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
政治・経済に関する諸課題を考察するための知識や概念を諸資料の中から適切に把握し、まとめている。	他者との議論の中で合意形成を図るためにコミュニケーションをとおして得られた結論を適切に表現する能力と態度を身に付けている。	国際社会に生きる人間として積極的、主体的に現代の政治・経済に関する問題を自分の問題として考察しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題出題） ②確認テスト	①定期考査（思考・判断・表現の定着状況を評価する問題出題） ②確認テスト ③課題の提出内容	①課題提出内容やプリント等の取組状況 ②振り返りシート等による自己評価

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ①知識・技能40％ ②思考・判断・表現40％ ③主体的に学習に取り組む態度20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 ①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と世界の政治体制	☐ 民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちの関わりについて理解する。 ☐ 法に関する基本的な見方や考え方を把握しながら、法の意義について理解する。	☐ 基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、人権保障の国際的な広がりについて考察する。	☐ 民主主義の発展について理解するとともに、各国の政治体制について諸資料を利用して調査する。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主②
	④日本国憲法の基本原理 ⑤平和主義と自衛隊 ⑥基本的人権の保障と新しい人権	☐ 日本国憲法の成立過程を把握しながら、日本国憲法の三大原理について理解する。 ☐ 大日本帝国憲法と日本国憲法の違いを考察し、それぞれの憲法の本質について理解する。 ☐ 天皇の地位と役割について、国民主権と関連させて理解する。	☐ 日本国憲法をめぐる論点について関心を高める。 ☐ 個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について把握しながら、権利相互の関係や人権をめぐる諸課題について考察する。	☐ 自由権や社会権、参政権などの基本的人権や新しい人権について理解を深め、その本質を把握する。 ☐ 人権に関する判例を活用しながら、権利と義務との関係や、公共の福祉の概念について考察する。	
	⑦国会の組織と立法 ⑧内閣の機構と行政 ⑨裁判所の機能と司法制度 ⑩地方自治制度と住民の権利	☐ 国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を高めるとともに、それぞれの役割について理解する。 ☐ 日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方、地方自治について、問題点も含め、幅広い視点から理解する。	☐ 二院制の意義や法律の制定過程、衆議院の優越など、国会に関する基本的事項について把握しながら、国会の課題についても関心を高める。 ☐ 現代の福祉国家の下では、国家機能が複雑化・大規模化して、行政府の役割が増大したことを考察する。 ☐ 裁判員制度について理解し、報道資料などから国民の司法参加の意義を考察するとともに、刑罰の意義などについて関心を高める。	☐ 国会、内閣、裁判所などの政治機構について理解し、報道資料などから政治の意義を考察する。 ☐ 地方自治の本旨を把握しながら、地方分権と住民の権利について理解し、国と地方の関係を考察する。	

2 学 期	⑪政党政治と選挙制度 ⑫民主政治における世論の役割	☐ 日本の選挙制度について把握しながら、政党や圧力団体の行動とその意義を理解する。 ☐ 政党政治や選挙、国民の政治意識や政治行動の特徴などを理解しながら、政治への関心を高める。	☐ 選挙結果や投票率の分析・動向などを、さまざまな情報手段を活用して調査し、主権者としての参政のあり方について考察する。 ☐ マスメディアの役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて考察する。	☐ 特定の政治的志向をもたない人々の増大や、政治的無関心の広がりについて考察する。 ☐ マスメディアの役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて理解する。	
	第2章 現代の国際政治と日本 ①国際社会と国際法 ②国際連合の組織と役割 ③国際政治の動向 ④国際紛争と難民問題 ⑤軍備管理と軍縮 ⑥日本の外交と国際平和への役割	☐ 国際社会の成立過程を把握しながら、実際には国家間でさまざまな格差があることを理解する。 ☐ 国際政治と国内政治の違いや、国際法や国際裁判の意義を理解する。 ☐ グローバル化の進展により、国際社会ではNGOや多国籍企業など国家以外の機関や組織が活動していることを理解する。	☐ 国際連盟と国際連合の違いを把握しながら、国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について考察する。 ☐ 冷戦終結後の国際社会の動向について把握するとともに、冷戦終結後の世界が冷戦時代と比べてどのように変化したのか把握する。 ☐ 民族紛争を例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察するとともに、国際社会における文化や宗教の多様性について考察する。	☐ 軍縮や国際平和に関する問題について、メディアを利用して調査し、国際平和のために日本が貢献できることについて、多角的な視点で考察する。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主②
	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 ①経済社会の発展 ②経済主体と経済活動 ③市場経済の機能と限界 ④経済成長と景気変動	☐ 資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較しながら、現代経済の特質について理解する。 ☐ 家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのか理解する。	☐ 株式会社とはどのようなものか、所有と経営の両面から理解するとともに、企業の社会的責任について関心を高める。 ☐ 市場の基本である需要と供給との関係について、正しく考察する。 ☐ 独占、寡占状態の市場での消費者に対する影響と、その弊害を排除するための措置について考察する。	☐ 国民所得の構成や景気変動、経済成長について、諸資料を利用して、日本と諸外国の現状を比較する。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主②

	⑤物価の動き ⑥金融のしくみとはたらき ⑦財政のしくみとはたらき ⑧日本経済の歩み	☐ 物価の変動要因を理解するとともに、物価の変動が国民経済に及ぼす影響について理解する。 ☐ 金融のしくみや役割、日本銀行の金融政策、財政に関する環境の変化を理解する。	☐ 財政の基本的なしくみや役割、租税の意義について理解しながら、その使途について関心を高める。	☐ 日本の財政の現状について、報道資料などから調査し、公債残高の膨張が将来に及ぼす影響を考察する。	
3 学 期	⑨中小企業の地位と役割 ⑩農業の現状と課題 ⑪消費者問題 ⑫高度情報社会の進展と課題	☐ 大企業と中小企業の違いや日本経済において中小企業が果たしている役割について理解する。 ☐ 日本の農業、消費者問題、情報社会が直面している課題について理解する。	☐ 中小企業、農業、消費者問題、情報社会の現状やさまざまな法制度について、諸資料を利用して調査する。	☐ 中小企業、農業、消費者問題、情報社会の現状やさまざまな法制度について国民生活に及ぼす影響や課題について考察する。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主②
	⑬労働問題 ⑭社会保障制度の充実 ⑮環境保全と資源・エネルギー問題 第2章 国民経済と国際経済 ①国際経済のしくみ ②国際協調と国際経済機関の役割 ③地域的経済統合 ④グローバル化する経済 ⑤南北問題と日本の役割	☐ 労働基本権と労働三法の基本的内容とその意義を理解する。 ☐ メディアを利用して、若年層・女性・中高年・障害者・外国人労働者など最近の労働問題を理解する。 ☐ 国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。 ☐ 国際収支の基本的な構成を把握しながら、経済摩擦の要因である不均衡が生じる原因について理解する。 ☐ 為替相場のメカニズムについて把握しながら、円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。	☐ 日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。 ☐ すべての人が社会に参画する為の方法を、諸資料を利用して調査する。 ☐ 地域的経済統合やFTA・EPAについて関心をもち、諸資料を利用しながら具体的に考察する。 ☐ グローバリゼーションにともなうヒト、モノ、カネの国際的な移動が、国際経済に与える影響について、関心を高める。	☐ 深刻化している地球規模の環境問題に関心をもち、どのように乗り越えるべきか考察する。 ☐ 化石燃料・原子力発電・新エネルギーのそれぞれの違いとメリット・デメリットを考察する。 ☐ 先進国と発展途上国の経済格差や新興国の台頭について把握しながら、日本が南北問題の解決に向けてどのような役割が期待されているか考察する。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主②

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ
学年・類型	2 中進文系（6組）	単位数	4
教科書	高等学校 数学Ⅱ（数研出版）		
副教材	NEW ACTION LEGEND数学Ⅱ+B（東京書籍） リンク数学演習ⅠA+ⅡB受験編（数研出版）		
科目目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「週末課題及び休業期間の課題」に取り組み、内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 小テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 小テスト	① 週末課題及び休業期間の課題の提出状況及び取組状況 ② 課題考査・到達度テスト

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％	

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	数学ⅠA演習 LEGEND Ⅰ・A で基本事項の復習を行う。 2次関数 図形と計量	☐ $ax^2 + bx + c$ を $a(x-p)^2 + q$ の形に変形できる。 ☐ 平方完成を利用して、2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 ☐ 2次関数を $y = a(x-p)^2 + q$ の形に式変形して、最大値、最小値を求めることができる。 ☐ 2次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。 ☐ 2次方程式において、判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ☐ 2次不等式を解くことができる。 ☐ 2次の連立不等式を解くことができる。 ☐ 正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。 ☐ 余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。 ☐ 三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 ☐ 3辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。 ☐ 3辺が与えられた三角形の内接円の半径を、求めることができる。	☐ 2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフを、$y = ax^2$ のグラフをもとに考察することができる。 ☐ 放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。 ☐ 具体的な事象の最大・最小の問題を、2次関数を利用して表現し、処理することができる。 ☐ 2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 ☐ 2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を、$D = b^2 - 4ac$ の符号から考察することができる。 ☐ 2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。 ☐ 具体的な事象を、三角比の問題としてとらえることができる。 ☐ 三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	☐ 日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。 ☐ 2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。 ☐ 2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。 ☐ 2次関数のグラフと x 軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。 ☐ 2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。 ☐ 身近な問題を2次不等式で解決しようとする。 ☐ 三角比が与えられたときの θ を求める際に、図を積極的に利用しようとする。 ☐ 三角形の解法について興味を示し、$\sin 75^\circ$ なども求めようとする。 ☐ 三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。 ☐ 日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

2 学 期	微分方 積分法	□ 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 □ 関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 □ 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 □ 関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 □ 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 □ 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 □ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 □ 上下関係が入れ替わる2つの曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる	□ 定点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えることができる。 □ 最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 □ 上端がxである定積分を、xの関数とみることができる。 □ 面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。 □ 図形の対称性に着目した面積計算をすることができる。	□ 接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。 □ 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。関数の増減や極値を調べ、3次関数のグラフ、4次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 □ 身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。 □ 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 □ 積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 □ 定積分の性質を利用して、計算がなるべく簡単になるように工夫して計算しようとする意欲がある。 □ 面積$S(x)$が関数$f(x)$の原始関数の1つであることに興味・関心をもち、考察しようとする。	
-------------	---	---	---	--	--

数学Ⅱ演習 リンク数学演習 「basic」「challenge」 で応用力を身につける。 式と証明	☐ 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ☐ 多項式の割り算の計算方法を理解している。 ☐ 分数式の約分、四則計算ができる。 ☐ 等式の証明ができる。 ☐ 不等式の証明ができる。	☐ 2種類以上の文字を含む多項分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ☐ 与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。 ☐ 不等式 $A > B$ を証明するとき、$A - B > 0$ を示してもよいことを利用して、不等式を証明することができる。	☐ $(a + b + c)^n$ を展開したときの a^p, b^q, c^r の係数がどうなるかを、興味・関心をもって調べようとする。 ☐ 比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。 ☐ 不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
複素数と方程式	☐ 複素数の四則計算ができる。 ☐ 判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。 ☐ 解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ☐ 剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ☐ 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。	☐ 与えられた2数を解にもつ2次方程式が1つには定まらないことを理解している。 ☐ 異なる2つの実数 α, β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ☐ 2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。	☐ 2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。 ☐ 2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。	
図形と方程式	☐ 数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ☐ 与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ☐ 2直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 ☐ 点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用することができる。 ☐ 円の接線の公式を理解していて、それを利用できる。 ☐ 円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ☐ 2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べる	☐ 直線に関して対称な点の座標を求めることができる。 ☐ 平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ☐ 軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。 ☐ 不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみるができる。	☐ ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。 ☐ 点を満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ☐ 不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもつ。	

	三角関数	ことができる。 ☐ 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ☐ 連立不等式の表す領域を図示することができる。 ☐ 扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 ☐ $y = \sin(k\theta + \alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して、グラフや周期を考察することができる。 ☐ 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ☐ 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 ☐ 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ☐ 正接の加法定理を利用して、2直線のなす角を考察することができる。 ☐ 2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 ☐ 合成後の変数のとる値の範囲に注意して、方程式や不等式を解くことができる。	☐ 変数をおき換えることで、三角関数を含む方程式を考察することができる。また、その解き方を理解している。 ☐ 変数をおき換えることで、三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。 ☐ 角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。 ☐ 2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考察することができる。	☐ 三角関数を含む方程式・不等式を解くことに取り組む意欲がある。 ☐ やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組む意欲がある。 ☐ 加法定理を2点間の距離の公式を用いて証明しようとする。 ☐ 同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。	
3学期	指数関数と対数関数	☐ 累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ☐ 底と1の大小に注意し、指数関数を含む不等式を解くことができる。 ☐ 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 ☐ 底と1の大小に注意して対数関数を含む不等式を解くことができる。	☐ 指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。 ☐ 対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。	☐ やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。	
	微分法と積分法	☐ 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができ、導関数を利用して微分係数が求められるこ	☐ 定点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えることがで	☐ 接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。	知① 知② 思① 思②

	とを理解している。 ☐ 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 ☐ 関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 ☐ 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ☐ 関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ☐ 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ☐ 不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y = f(x)$ の最小値が 0 以上と読み替えることができる。 ☐ 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 ☐ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ☐ 上下関係が入れ替わる 2 つの曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。	きる。 ☐ 最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 ☐ 方程式の実数解の個数を、関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ☐ 微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 ☐ 定積分の性質の等式を、左辺から右辺、右辺から左辺への変形として利用できる。 ☐ 上端が x である定積分を、x の関数とみることができる。 ☐ 面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。 ☐ 図形の対称性に着目した面積計算をすることができる。	☐ 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。関数の増減や極値を調べ、3 次関数のグラフ、4 次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 ☐ 身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 ☐ 積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 ☐ 定積分の性質を利用して、計算がなるべく簡単になるように工夫して計算しようとする意欲がある。 ☐ 面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の原始関数の 1 つであることに興味・関心を持ち、考察しようとする。	主① 主②
--	---	---	---	---------------------

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ
学年・類型	2 高進文系・中進文系（6組以外）	単位数	4
教科書	高等学校 数学Ⅱ（数研出版）		
副教材	NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B（東京書籍） リンク数学演習ⅠA+ⅡB受験編（数研出版）		
科目目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「週末課題及び休業期間の課題」に取り組み，内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 小テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 小テスト	① 週末課題及び休業期間の課題の提出状況及び取組状況 ② 課題考査・到達度テスト

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	☐ 数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ☐ 座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ☐ 座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ☐ 三角形の重心の座標の公式を理解している。 ☐ 与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ☐ 2直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 ☐ 点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用することができる。	☐ 図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 ☐ 点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 ☐ 直線が x, y の1次方程式で表されることを理解している。 ☐ 直線に関して対称な点の座標を求めることができる。	☐ 数直線上の点について調べようとする。 ☐ 図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ☐ 切片形の公式を利用して、直線の方程式を求めようとする。 ☐ ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。 ☐ 2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	☐ 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ☐ x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ☐ 3点を通る円の方程式を求めることができる。 ☐ 円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ☐ 円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ☐ 円の接線の公式を理解していて、それを利用できる。 ☐ 円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ☐ 2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 ☐ 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ☐ 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ☐ 不等式の表す領域を図示することができる。 ☐ 連立不等式の表す領域を図示することができる。	☐ 円の方程式が x, y の2次方程式で表されることを理解している。 ☐ 3点を通る円はこの3点を頂点とする三角形の外接円であることを理解している。 ☐ 円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ☐ 円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ☐ 平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ☐ 軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。 ☐ 不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみる可以尝试。	☐ 円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。 ☐ 2つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ☐ 点を満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ☐ 不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもち、考察しようとする。	
第4章 三角関数 第1節 角の拡張 1. 三角比 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	☐ 一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりすることができる。 ☐ 角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。 ☐ 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。 ☐ 扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 ☐ 弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって	☐ 一般角を動径とともに考察することができる。 ☐ 弧の長さで角を図る方法として、弧度法を考察することができる。		知① 知② 思① 思② 主① 主②

	求めることができる。 ☐ 単位円周上の点の座標を，三角関数を用いて表すことができる。 ☐ いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 ☐ $y = \sin(k\theta + \alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して，グラフや周期を考察することができる。 ☐ 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 $-1 \leq \sin \theta \leq 1$ などに注意して， ☐ おき換えによって三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察できる。 ☐ 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 ☐ 加法定理を利用して，種々の三角関数の値を求めることができる。 ☐ 正接の加法定理を利用して，2 直線のなす角を考察することができる。 ☐ 2 倍角の公式を利用して，三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 ☐ 合成後の変数のとる値の範囲に注意して，$a \sin x + b \cos x = k$ の形の方程式を解くことができる。	☐ 単位円上の点の動きから，三角関数のグラフを考察することができる。 ☐ 三角関数の性質を，グラフの特徴とともに考察することができる。 ☐ 三角関数の性質を，単位円を用いて考察することができる。変数をおき換えることで，三角関数を含む方程式を考察することができる。また，その解き方を理解している。 ☐ 変数をおき換えることで，三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。 ☐ 角を弧度法で表した場合にも，加法定理が適用できる。 ☐ 2 倍角の公式を利用して，三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考察することができる。	☐ $y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味・関心をもつ。周期関数に興味をもち，その性質を調べようとする。 ☐ 三角関数を含む方程式・不等式を解くことに取り組む意欲がある。やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組む意欲がある。 ☐ 加法定理を 2 点間の距離の公式を用いて証明しようとする。 ☐ 同じ周期をもつ 2 つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。	
--	--	--	---	--

2 学 期	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	☐ 指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ☐ 累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。 ☐ 指数が無理数の場合の累乗根の意味を理解することができる。 ☐ 指数関数のグラフの概形、特徴を理解し、底と1の大小に注意し、指数関数を含む不等式を解くことができる。	☐ 指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 ☐ 累乗根をグラフによって考察することができる。 ☐ 指数関数 $y = a^x$ のグラフが定点 $(0, 1)$ を通ることを理解している。 ☐ 指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。	☐ 累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。 ☐ 負の数の n 乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。 ☐ 指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第2節 対数関数 3. 対数関数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	☐ 指数と対数とを相互に書き換えることができる。 ☐ 対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 ☐ 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 ☐ 底の変換公式を等式として利用できる。 ☐ 対数関数のグラフの概形、特徴を理解し、底と1の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。 ☐ 対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。 ☐ おき換えによって関数の最大・最小問題を解くことができる。 ☐ 常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。 ☐ 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。	☐ 対数 $\log_a M$ が $M = a^p$ を満たす指数 p を表していることを理解している。 ☐ 指数法則から、対数の性質を考察することができる。 ☐ 対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線 $y = x$ に関して対称であるという見方ができる。 ☐ 対数関数 $y = \log_a x$ のグラフが定点 $(1, 0)$ を通ることを理解している。 ☐ 対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ☐ 桁の数、小数首位第 n 位の数を、不等式で表現することができる。	☐ 指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。 ☐ やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。 ☐ 桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。	
	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	☐ 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ☐ 微分係数の図形的意味を理解している。	☐ 平均変化率における x の変化量 h は負でもよいことを理解している。	☐ 接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主①

第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	☐ 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができ、導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 ☐ 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 ☐ 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。 ☐ 関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 ☐ 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ☐ 関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ☐ 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ☐ 導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。 ☐ 不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y = f(x)$ の最小値が0以上と読み替えることができる。	☐ 導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。 ☐ 定点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えることができる。 ☐ 接線の傾きで関数の増減が調べられることを理解している。$f'(a) = 0$ は、$f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。 ☐ 最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 ☐ 方程式の実数解の個数を、関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ☐ 不等式を、関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて、考察できる。 ☐ 微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 ☐ 定積分の性質の等式を、左辺から右辺、右辺から左辺への変形	☐ 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。 ☐ 関数の増減や極値を調べ、3次関数のグラフ、4次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 ☐ 身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。 ☐ 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 ☐ 積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 ☐ 定積分の性質を利用して、計算がなるべく簡単になるように工夫して計算しようとする意欲があ	主②
第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	☐ 不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 ☐ 不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 ☐ 与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる。 ☐ 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 ☐ 定積分は定数であることを理解	☐ 定積分の性質の等式を、左辺から右辺、右辺から左辺への変形		

		し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。 ☐ 上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 ☐ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ☐ 上下関係が入れ替わる2つの曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ☐ 絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。	として利用できる。 ☐ 上端が x である定積分を、x の関数とみることができる。 ☐ 面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかくて考察している。 ☐ 図形の対称性に着目した面積計算をすることができる。	る。 ☐ 面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の原始関数の1つであることに興味・関心をもち、考察しようとする。 ☐ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。	
3 学 期	数学Ⅱ演習 リンク数学演習 「approach」で基本事項の復習を行う。 9 式と証明 10 複素数と方程式	☐ 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ☐ 多項式の割り算の計算方法を理解している。 ☐ 分数式の約分、四則計算ができる。 ☐ 等式の証明ができる ☐ 複素数の四則計算ができる。 ☐ 判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。 ☐ 解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ☐ 剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ☐ 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。	☐ 2種類以上の文字を含む多項分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ☐ 与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。 ☐ 不等式 $A > B$ を証明するとき、$A - B > 0$ を示してもよいことを利用して、不等式を証明することができる。 ☐ 与えられた2数を解にもつ2次方程式が1つには定まらないことを理解している。 ☐ 異なる2つの実数 α、β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ☐ 2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。	☐ $(a + b + c)^n$ を展開したときの a^p, b^q, c^r の係数がどうなるかを、興味・関心をもって調べようとする。 ☐ 比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。 ☐ 不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。 ☐ 2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。 ☐ 2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	11 図形と方程式	☐ 数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ☐ 与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。	☐ 直線に関して対称な点の座標を求めることができる。	☐ ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。	

1 2 三角関数	☐ 2直線の平行・垂直条件を理解して、それを利用できる。 ☐ 点と直線の距離の公式を理解して、それを利用することができる。 ☐ 円の接線の公式を理解して、それを利用できる。 ☐ 円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ☐ 2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 ☐ 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ☐ 連立不等式の表す領域を図示することができる。 ☐ 扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 ☐ $y = \sin(k\theta + \alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して、グラフや周期を考察することができる。 ☐ 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ☐ 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 ☐ 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ☐ 正接の加法定理を利用して、2直線のなす角を考察することができる。 ☐ 2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 ☐ 合成後の変数のとる値の範囲に注意して、方程式や不等式を解くことができる。 ☐ 累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ☐ 底と1の大小に注意し、指数関数	☐ 平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ☐ 軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。 ☐ 不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみる可以尝试。 ☐ 変数をおき換えることで、三角関数を含む方程式を考察することができる。また、その解き方を理解している。 ☐ 変数をおき換えることで、三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。 ☐ 角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。 ☐ 2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考察することができる。 ☐ 指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。	☐ 点を満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ☐ 不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもつ。 ☐ 三角関数を含む方程式・不等式を解くことに取り組む意欲がある。 ☐ やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組む意欲がある。 ☐ 加法定理を2点間の距離の公式を用いて証明しようとする。 ☐ 同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。 ☐ やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。
1 3 指数関数と対数関数			

	1 4 微分法と積分法	を含む不等式を解くことができる。 □ 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 □ 底と1の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。 □ 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができ、導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 □ 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 □ 関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 □ 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかくたりすることができる。 □ 関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 □ 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 □ 不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y = f(x)$ の最小値が0以上と読み替えることができる。 □ 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 □ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 □ 上下関係が入れ替わる2つの曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。	□ 対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 □ 定点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えることができる。 □ 最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 □ 方程式の実数解の個数を、関数のグラフとx軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 □ 微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 □ 定積分の性質の等式を、左辺から右辺、右辺から左辺への変形として利用できる。 □ 上端がxである定積分を、xの関数とみることができる。 □ 面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかくて考察している。 □ 図形の対称性に着目した面積計算をすることができる。	□ 接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。 □ 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。関数の増減や極値を調べ、3次関数のグラフ、4次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 □ 身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。 □ 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 □ 積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 □ 定積分の性質を利用して、計算がなるべく簡単になるように工夫して計算しようとする意欲がある。 □ 面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の原始関数の1つであることに興味・関心をもち、考察しようとする。	
--	--------------------	--	--	---	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅲ
学年・類型	2中進理系	単位数	4
教科書	高等学校 数学Ⅲ（数研出版）		
副教材	NEW ACTION LEGEND 数学Ⅲ（東京書籍）		
科目目標	極限，微分法及び積分法について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「週末課題及び休業期間の課題」に取り組み，内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
極限，微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し，数学的に考察したりする力，いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 小テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 小テスト	① 週末課題及び休業期間の課題の提出状況及び取組状況 ② 課題考査・到達度テスト

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準 (到達目標B規準) と到達度チェック (自己評価)			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	☐ 分数関数の定義域や漸近線などについて理解し、簡単な分数関数のグラフをかくことができる。 ☐ 関数 $y = \frac{ax+b}{cx+d}$ を適切に変形して、グラフをかくことができる。 ☐ 無理関数の定義域や値域などについて理解し、簡単な分数関数のグラフをかくことができる。 ☐ 逆関数の定義や、定義域、値域について理解し、具体的な関数の逆関数を求めることができる。 ☐ $b = f(a)$ と $a = f^{-1}(b)$ が同値であることを理解している。 ☐ $y = f(x)$ のグラフとその逆関数のグラフの関係を理解し、逆関数のグラフをかくことができる。 ☐ 合成関数の意味を理解し、具体的に求めることができる。 ☐ 数列の極限についての用語や表記および ∞ の意味について理解している。 ☐ 数列の収束、発散などの用語の意味を正確に理解し、簡単な数列の極限を調べることができる。 ☐ 収束する数列の極限値の性質を理解し、正しく適用できる。	☐ 方程式の実数解とグラフの共有点の関係を正しく理解し、それを分数関数に適用して共有点の座標を求めることができる。 ☐ 方程式や不等式の解と関数のグラフの関係を正しく理解し、それを分数関数に適用して方程式、不等式を解くことができる。 ☐ 方程式の実数解とグラフの共有点の関係を正しく理解し、それを無理関数に適用して共有点の座標を求めることができる。 ☐ 方程式や不等式の解と関数のグラフの関係を正しく理解し、それを無理関数に適用して方程式、不等式を解くことができる。 ☐ 逆関数の定義から、逆関数の定義域や値域、性質を考察することができる。 ☐ 工夫して式変形し、数列の極限を求めることができる。 ☐ 数列の極限が簡単に求められない場合、はさみうちの原理を用いて極限を求めることができる。 ☐ r^n を含む数列について、既習事項を適用できるように、 r の値によって適切に式変形して、極限を考察できる。 ☐ 漸化式で定められる数列について、一般項を求めることで既習内容に帰着し、極限を求めることができる。 ☐ 無限級数の収束、発散について、部分和の極限を、既習の数列の極限として捉え、調べることが	☐ 方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとする。 ☐ 方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとする。 ☐ 関数が逆関数をもたない場合について、定義やグラフを用いて考察しようとする。 ☐ 関数とその逆関数の合成関数が恒等関数になることに興味をもち、考察しようとする。 ☐ 様々な数列について、 n が大きくなるときに第 n 項がどのようなかに興味をもち、積極的に調べようとする。 ☐ 数列の極限を求めるために、様々な方法で不定形を解消しようとする。 ☐ 無限等比数列について、公比の値によって丁寧に場合分けし、極限を調べようとする。 ☐ 漸化式で定められる数列について、図を用いて極限が考えられることに興味をもつ。 ☐ 無限等比級数の収束、発散について、既習である無限等比数列を用いて考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第2章 極限 第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数				

第2節 関数の極限 4. 関数の極限 (1) 5. 関数の極限 (2) 6. 三角関数と極限 7. 関数の連続性	☐ 数列の極限について、不定形を解消するように式変形して収束、発散を調べることができる。 ☐ 無限等比数列の極限を調べることができる。 ☐ 無限等比数列が収束する条件を理解している。 ☐ r^n を含む数列について、不定形を解消するように式変形を工夫し、極限を求めることができる。 ☐ 無限等比級数の収束、発散を調べることができる。 ☐ 無限等比級数が収束する条件を理解している。 ☐ 収束する無限級数の性質を理解し、正しく適用できる。 ☐ 無限級数の収束、発散と一般項 a_n の収束、発散との関係を正しく理解し、無限級数の収束、発散を調べることができる。 ☐ $x \rightarrow a$ のときの関数の極限の表記、および収束する場合に成り立つ極限の性質について理解し、簡単な極限を求めることができる。 ☐ $x = a$ で定義されていない関数についても $x \rightarrow a$ のときの極限值が存在することがあることを理解している。	- できる。 ☐ 繰り返しを含む点の移動の問題に、無限等比級数を活用することができる。 ☐ 循環小数を無限等比級数と捉え、循環小数を分数で表すことができる。 ☐ 不定形を解消するように工夫して式変形し、関数の極限を求めることができる。 ☐ 関数の極限についての等式から定数を求めることができる。 ☐ 右側極限と左側極限が異なる関数について、グラフを用いて極限について考察できる。 ☐ 不定形を解消するように工夫して式変形し、$x \rightarrow \pm\infty$ のときの関数の極限を求めることができる。 ☐ 関数の極限が簡単に求められない場合、はさみうちの原理を用いて極限を求めることができる。 ☐ $\frac{\sin x}{x}$ の極限を利用できるように適切に式変形し、三角関数を含む関数の極限を求めることができる。 ☐ 中間値の定理を直感的に理解し、それを用いて解の存在について考察できる。	☐ 関数の右側極限、左側極限の考え方に興味・関心をもつ。 ☐ $x \rightarrow \pm\infty$ のときの指数関数、対数関数の極限について、グラフを利用して理解を深めようとする。 ☐ $x \rightarrow \pm\infty$ のときの三角関数の極限などについて、グラフを利用して理解を深めようとする。 ☐ 連続でない関数があることに興味をもち、グラフを用いてそのことを調べようとする。
---	---	---	--

		☐ $x \rightarrow a$ のとき発散する関数があること、およびその表記について理解し、簡単な極限を求めることができる。 ☐ 右側極限、左側極限が異なる関数について、それぞれの極限を求めることができる。 ☐ $x \rightarrow \pm\infty$ のときの関数の極限の表記について理解し、簡単な極限を求めることができる。 ☐ 指数関数、対数関数について、 $x \rightarrow \pm\infty$ のときの極限を求めることができる。 ☐ 簡単な三角関数の極限を求めることができる。 ☐ 関数が $x=a$ で連続であることの定義を正しく理解している。 ☐ 定義に基づいて、関数が連続であるか連続でないかを調べることができる。 ☐ 連続関数の定義を理解している。閉区間で連続な関数が最大値、最小値をもつことを理解している。	☐ 連続性が微分可能性の必要条件であるが十分条件ではないことを具体的な関数を用いて考察できる。		
--	--	--	--	--	--

2 学 期	第3章 微分法 第1節 導関数 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 第2節 いろいろな関数の導関数 3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数	☐ 定義にしたがって微分係数を求めることができる。 ☐ 関数が微分可能であることと連続であることの関係について理解し、関数が微分可能でないことを示すことができる。 ☐ 導関数を、微分係数を与える関数として理解している。 ☐ 定義にしたがって導関数を求めることができる。 ☐ 積の導関数の公式を適用して、関数を微分できる。 ☐ 商の導関数の公式を適用して、関数を微分できる。 ☐ 合成関数の導関数を求めることができる。 ☐ 逆関数の微分法を用いて、導関数を求めることができる。 ☐ 三角関数を含む関数の微分ができる。 ☐ 対数関数を含む関数の微分ができる。 ☐ 対数微分法を用いて複雑な関数を微分することができる。 ☐ 指数関数を含む関数の微分ができる。	☐ これまで学んだ公式を用いて、新たな公式を証明することができる。 ☐ $\log x$ の導関数について、それを考える理由とともに理解し、導関数の計算ができる。	☐ 連続であっても微分可能でない関数が存在することに興味をもつ。 ☐ $(x^a)' = ax^{a-1}$ において、a の範囲が自然数、整数、有理数と拡張されていくことに興味をもち、その展開について理解を深めようとする。 ☐ $(1+k)^{\frac{1}{k}}$ が $k \rightarrow 0$ のときどのような値に近づいていくかに興味をもち、その値や性質について自ら調べようとする。 ☐ 自然対数の底 e の値について、指数関数のグラフの接線の傾きという観点から見直そうとする。 ☐ 第 n 次導関数の式の形を予想しようとする。 ☐ 陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について、その簡便さを理解し、積極的に利用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
-------------	--	---	--	---	--

		☐ 高次導関数の定義や表記を理解し、種々の関数の高次導関数を求めることができる。 ☐ 方程式 $F(x, y)=0$ を関数 (陰関数) とみる考え方を理解している。 ☐ 方程式 $F(x, y)=0$ を関数 (陰関数) とみて微分することができる。 ☐ 媒介変数 t で表された関数の導関数を、 t を用いて表すことができる。	☐ 第2次, 第3次導関数などを求めることで、一般の第 n 次導関数を求めることができる。 ☐ 陰関数表示 $F(x, y)=0$ を、陽関数表示 $y=f(x)$ としなくても微分できることを理解している。		
--	--	--	---	--	--

3 学期	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 第2節 いろいろな応用 5. 方程式, 不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式	☐ 微分係数の意味を理解しており, 曲線の接線の方程式を求めることができる。 ☐ 曲線の法線の方程式を求めることができる。 ☐ 平均値の定理の図形的な意味を理解している。 ☐ 導関数を用いて関数の増減を調べることができる。 ☐ 導関数を用いて関数の極値を求めることができる。 ☐ 関数の極値が与えられたとき, 関数を決定することができる。 ☐ 関数の増減を調べて, 最大値, 最小値を求めることができる。 ☐ 第2次導関数の図形的な意味を理解し, 曲線の凹凸や変曲点を調べることができる。 ☐ 第2次導関数と極値の関係を理解している。 ☐ 分数式等の $x \rightarrow \infty$ のときの極限について, 直感的に理解している。 ☐ 導関数の定義から, 点の位置を表す関数の導関数が速度を, 第2次導関数が加速度を表すことを理解している。 ☐ 直線上を運動する点の速度と加速度を求めることができる。 ☐ 平面上を運動する点の速さと加速度の大きさを求めることができる。 ☐ 微分係数の意味とその図形的な意味から, 関数の近似式について理解できる。 ☐ 関数の1次の近似式を作ることができる。	☐ 曲線外の点Cから曲線に接線を引くとき, 接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えて, 接線の方程式を求めることができる。 ☐ 陰関数の微分を活用して, 接線の方程式を求めることができる。 ☐ 平均値の定理を用いた不等式の証明ができる。 ☐ 数学Ⅱで学習した関数の増減や導関数との関係について, より厳密に定義し直した上で, 平均値の定理を用いて証明することができる。 ☐ 微分可能でない点でも関数が値をもつことがあることを理解し, 定義をもとに極値を求めることができる。 ☐ 増減や凹凸, 漸近線などを調べて, 関数のグラフをかくことができる。 ☐ 不等式を関数の値域の条件として捉え, 関数の増減を用いて不等式の証明ができる。 ☐ 方程式の解を関数のグラフの交点として捉え, グラフを用いて方程式の解について考察できる。 ☐ 直線上を運動する点の速度, 加速度をもとに, 平面上を運動する点の速度, 加速度について考察できる。 ☐ 関数の1次の近似式を活用して, 数の近似値を求めることができる。	☐ 接線や法線の方程式を, 様々な導関数を活用して求めようとする。 ☐ 存在定理である平均値の定理について, その意味を理解し, c の値を具体的に求めることで確かめようとする。 ☐ 関数の増減の様子を調べるのに, 導関数を積極的に活用しようとする。また, 導関数だけでなく連続性や微分可能性, 極値の定義などにも注意して, 増減を丁寧に調べようとする。 ☐ 関数のグラフの様々な形に興味をもち, 様々な方法でそれを調べようとする。 ☐ 不等式を関数的視点で捉え, 微分法を利用して解決しようとする。 ☐ 点の運動の考察に微分法を活用できることに興味をもち, 様々な点の運動について調べようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
------	---	--	--	---	--

	第3節 積分法の応用 7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ	☐ 関数の大小と定積分の大小の関係をういたり、定積分を図形の面積とみたりすることで、不等式の証明ができる。 ☐ 定積分を用いて図形の面積を求めることができる。 ☐ 曲線 $x=g(y)$ で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ☐ $F(x, y)=0$ で表される曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。 ☐ 定積分で体積が求められる仕組みを、区分求積法で面積が求められることと関連付けて理解している。 ☐ x 軸, y 軸周りの回転体の体積を求めることができる。 ☐ 数直線上で運動する点の座標や通過した道のりを、定積分を用いて求めることができる。 ☐ 座標平面上で運動する点の通過する道のりを、定積分を用いて求めることができる。 ☐ 媒介変数表示された曲線の長さを、座標平面上で点が通過した道のりと関連させて理解している。 ☐ 媒介変数表示された曲線の長さを求めることができる。 ☐ 曲線 $y=f(x)$ の長さを求めることができる。	して、定積分を含む関数を求めることができる。 ☐ 区分求積法について理解し、長方形の作り方を変えた場合などについても考察、説明ができる。 ☐ 媒介変数表示された曲線で囲まれた図形の面積を、置換積分法を活用して求めることができる。 ☐ 立体の断面がどのような図形になるか考え、定積分を用いて体積を求めることができる。 ☐ $F(x, y)=0$ で表される曲線や媒介変数表示された曲線で囲まれる図形を回転させてできる回転体の体積を求めることができる。 ☐ 数直線上を運動する点が通過する道のりについて、$v-t$ グラフで囲まれた部分の面積と関連付けて考察できる。 ☐ 曲線 $y=f(x)$ は $x=t, y=f(t)$ と媒介変数表示することで、曲線 $y=f(x)$ の長さを求められることを理解している。	くることに興味をもち、その計算方法を考察しようとする。 ☐ $\sin^n x$ の定積分に部分積分法を用いると漸化式が導かれることに興味をもち、その計算方法や計算結果について考察しようとする。 ☐ 曲線で囲まれた部分の面積を、細長い長方形の面積の和の極限と捉えることに興味をもち、定積分と数列の和の極限との関係を考察しようとする。 ☐ 図形の面積を求めるとき、グラフの位置関係などを、図をかいて把握しようとする。 ☐ 面積を求める際、対称性に着目して、計算を効率的に行おうとする。 ☐ 定積分を用いると、既習の三角錐や円錐の体積、球の体積の公式が導けることに興味をもち、積極的に考察しようとする。 ☐ 点の運動の考察に定積分を活用できることに興味をもち、様々な点の運動について調べようとする。 ☐ 曲線上の点が通過する道のりを、その曲線の長さと捉えることに興味をもち、理解を深めようとする。	
--	--	--	---	---	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ＋数学Ⅲ
学年・類型	2 高進理系	単位数	3＋1
教科書	高等学校 数学Ⅱ（数研出版），高等学校 数学Ⅲ（数研出版）		
副教材	NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ＋B（東京書籍） NEW ACTION LEGEND 数学Ⅲ（東京書籍）		
科目目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「週末課題及び休業期間の課題」に取り組み，内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 小テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 小テスト	① 週末課題及び休業期間の課題の提出状況及び取組状況 ② 課題考査・到達度テスト

各学期及び学年の成績算出方法について

観点別評価
知識・技能 40%
思考・判断・表現 40%
主体的に学習に取り組む態度 20%

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	☐ 数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ☐ 座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ☐ 座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ☐ 三角形の重心の座標の公式を理解している。 ☐ 与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ☐ 2直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 ☐ 点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用することができる。	☐ 図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 ☐ 点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 ☐ 直線が x, y の1次方程式で表されることを理解している。 ☐ 直線に関して対称な点の座標を求めることができる。	☐ 数直線上の点について調べようとする。 ☐ 図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ☐ 切片形の公式を利用して、直線の方程式を求めようとする。 ☐ ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。 ☐ 2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	☐ 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ☐ x, y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ☐ 3点を通る円の方程式を求めることができる。 ☐ 円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ☐ 円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ☐ 円の接線の公式を理解していて、それを利用できる。 ☐ 円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ☐ 2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 ☐ 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ☐ 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ☐ 不等式の表す領域を図示することができる。 ☐ 連立不等式の表す領域を図示することができる。	☐ 円の方程式が x, y の2次方程式で表されることを理解している。 ☐ 3点を通る円はこの3点を頂点とする三角形の外接円であることを理解している。 ☐ 円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ☐ 円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ☐ 平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ☐ 軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。 ☐ 不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみる可以尝试。	☐ 円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。 ☐ 2つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ☐ 点を満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ☐ 不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもち、考察しようとする。	
第4章 三角関数 第1節 角の拡張 1. 三角比 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用	☐ 一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりすることができる。 ☐ 角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。 ☐ 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。 ☐ 扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 ☐ 弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって	☐ 一般角を動径とともに考察することができる。 ☐ 弧の長さで角を図る方法として、弧度法を考察することができる。		知① 知② 思① 思② 主① 主②

第2節 加法定理
 6. 加法定理
 7. 加法定理の応用

- 求めることができる。
- 単位円周上の点の座標を, 三角関数を用いて表すことができる。
- いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。
- $y = \sin(k\theta + \alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して, グラフや周期を考察することができる。
- 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。
- $-1 \leq \sin \theta \leq 1$ などに注意して, おき換えによって三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察できる。
- 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。
- 加法定理を利用して, 種々の三角関数の値を求めることができる。
- 正接の加法定理を利用して, 2直線のなす角を考察することができる。
- 2倍角の公式を利用して, 三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。
- 合成後の変数のとる値の範囲に注意して, $a \sin x + b \cos x = k$ の形の方程式を解くことができる。

- 単位円上の点の動きから, 三角関数のグラフを考察することができる。
- 三角関数の性質を, グラフの特徴とともに考察することができる。
- 三角関数の性質を, 単位円を用いて考察することができる。
- 変数をおき換えることで, 三角関数を含む方程式を考察することができる。また, その解き方を理解している。
- 変数をおき換えることで, 三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。
- 角を弧度法で表した場合にも, 加法定理が適用できる。
- 2倍角の公式を利用して, 三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。

- $y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味・関心をもつ。
- 周期関数に興味をもち, その性質を調べようとする。
- 三角関数を含む方程式・不等式を解くことに取り組む意欲がある。
- やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組む意欲がある。
- 加法定理を2点間の距離の公式を用いて証明しようとする。
- 同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。

2 学 期	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	☐ 指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ☐ 累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。 ☐ 指数が無理数の場合の累乗根の意味を理解することができる。 ☐ 指数関数のグラフの概形、特徴を理解し、底と1の大小に注意し、指数関数を含む不等式を解くことができる。	☐ 指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 ☐ 累乗根をグラフによって考察することができる。 ☐ 指数関数 $y = a^x$ のグラフが定点 $(0, 1)$ を通ることを理解している。 ☐ 指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。	☐ 累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。 ☐ 負の数の n 乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。 ☐ 指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第2節 対数関数 3. 対数関数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	☐ 指数と対数とを相互に書き換えることができる。 ☐ 対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 ☐ 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 ☐ 底の変換公式を等式として利用できる。 ☐ 対数関数のグラフの概形、特徴を理解し、底と1の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。 ☐ 対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。 ☐ おき換えによって関数の最大・最小問題を解くことができる。 ☐ 常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。 ☐ 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。	☐ 対数 $\log_a M$ が $M = a^p$ を満たす指数 p を表していることを理解している。 ☐ 指数法則から、対数の性質を考察することができる。 ☐ 対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線 $y = x$ に関して対称であるという見方ができる。 ☐ 対数関数 $y = \log_a x$ のグラフが定点 $(1, 0)$ を通ることを理解している。 ☐ 対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ☐ 桁の数、小数首位第 n 位の数を、不等式で表現することができる。	☐ 指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。 ☐ やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。 ☐ 桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。	
	第6章 微分方と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	☐ 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ☐ 微分係数の図形的意味を理解している。	☐ 平均変化率における x の変化量 h は負でもよいことを理解している。	☐ 接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主①

第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	☐ 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができ、導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 ☐ 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 ☐ 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。 ☐ 関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 ☐ 導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ☐ 関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ☐ 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ☐ 導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。 ☐ 不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y = f(x)$ の最小値が0以上と読み替えることができる。	☐ 導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。 ☐ 定点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えることができる。 ☐ 接線の傾きで関数の増減が調べられることを理解している。 ☐ $f'(a) = 0$ は、$f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。 ☐ 最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 ☐ 方程式の実数解の個数を、関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ☐ 不等式を、関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて、考察できる。	☐ 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。 ☐ 関数の増減や極値を調べ、3次関数のグラフ、4次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 ☐ 身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。 ☐ 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	主②
第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	☐ 不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 ☐ 不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 ☐ 与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる。 ☐ 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 ☐ 定積分は定数であることを理解	☐ 微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 ☐ 定積分の性質の等式を、左辺から右辺、右辺から左辺への変形として利用できる。	☐ 積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 ☐ 定積分の性質を利用して、計算が	

	し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。 ☐ 上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 ☐ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ☐ 上下関係が入れ替わる2つの曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ☐ 絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。	☐ 上端が x である定積分を、x の関数とみることができる。 ☐ 面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。 ☐ 図形の対称性に着目した面積計算をすることができる。	なるべく簡単になるように工夫して計算しようとする意欲がある。 ☐ 面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の原始関数の1つであることに興味・関心をもち、考察しようとする。 ☐ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。	
--	---	--	---	--

3 学 期	10. 分数関数 11. 無理関数 12. 逆関数と合成関数	について理解し、簡単な分数関数のグラフをかくことができる。 ☐ 関数 $y = \frac{ax+b}{cx+d}$ を適切に変形して、グラフをかくことができる。 ☐ 無理関数の定義域や値域などについて理解し、簡単な分数関数のグラフをかくことができる。 ☐ 逆関数の定義や、定義域、値域について理解し、具体的な関数の逆関数を求めることができる。 ☐ $b = f(a)$ と $a = f^{-1}(b)$ が同値であることを理解している。 ☐ $y = f(x)$ のグラフとその逆関数のグラフの関係を理解し、逆関数のグラフをかくことができる。 ☐ 合成関数の意味を理解し、具体的に求めることができる。	点の関係を正しく理解し、それを分数関数に適用して共有点の座標を求めることができる。 ☐ 方程式や不等式の解と関数のグラフの関係を正しく理解し、それを分数関数に適用して方程式、不等式を解くことができる。 ☐ 方程式の実数解とグラフの共有点の関係を正しく理解し、それを無理関数に適用して共有点の座標を求めることができる。 ☐ 方程式や不等式の解と関数のグラフの関係を正しく理解し、それを無理関数に適用して方程式、不等式を解くことができる。 ☐ 逆関数の定義から、逆関数の定義域や値域、性質を考察することができる。	的に関数のグラフを活用しようとする。 ☐ 方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとする。 ☐ 関数が逆関数をもたない場合について、定義やグラフを用いて考察しようとする。 ☐ 関数とその逆関数の合成関数が恒等関数になることに興味をもち、考察しようとする。	知② 思① 思② 主① 主②
	第2章 極限 第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数	☐ 数列の極限についての用語や表記および∞の意味について理解している。 ☐ 数列の収束、発散などの用語の意味を正確に理解し、簡単な数列の極限を調べることができる。 ☐ 収束する数列の極限値の性質を理解し、正しく適用できる。 ☐ 数列の極限について、不定形を解消するように式変形して収束、発散を調べることができる。 ☐ 無限等比数列の極限を調べることができる。 ☐ 無限等比数列が収束する条件を理解している。 ☐ r^n を含む数列について、不定形を解消するように式変形を工夫し、極限を求めることができる。 ☐ 無限等比級数の収束、発散を調べることができる。 ☐ 無限等比級数が収束する条件を理解している。 ☐ 収束する無限級数の性質を理解	☐ 工夫して式変形し、数列の極限を求めることができる。 ☐ 数列の極限が簡単に求められない場合、はさみうちの原理を用いて極限を求めることができる。 ☐ r^n を含む数列について、既習事項を適用できるように、r の値によって適切に式変形して、極限を考察できる。 ☐ 漸化式で定められる数列について、一般項を求めることで既習内容に帰着し、極限を求めることができる。 ☐ 無限級数の収束、発散について、部分和の極限を、既習の数列の極限として捉え、調べることができる。 ☐ 繰り返しを含む点の移動の問題に、無限等比級数を活用することができる。 ☐ 循環小数を無限等比級数と捉え、循環小数を分数で表すこと	☐ 様々な数列について、n が大きくなるときに第 n 項がどのようになるかに興味をもち、積極的に調べようとする。 ☐ 数列の極限を求めるために、様々な方法で不定形を解消しようとする。 ☐ 無限等比数列について、公比の値によって丁寧に場合分けし、極限を調べようとする。 ☐ 漸化式で定められる数列について、図を用いて極限が考えられることに興味をもつ。 ☐ 無限等比級数の収束、発散について、既習である無限等比数列を用いて考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

	第2節 関数の極限 13. 関数の極限 (1) 14. 関数の極限 (2) 15. 三角関数と極限 16. 関数の連続性	し、正しく適用できる。 ☐ 無限級数の収束、発散と一般項 a_n の収束、発散との関係を正しく理解し、無限級数の収束、発散を調べることができる。 ☐ $x \rightarrow a$ のときの関数の極限の表記、および収束する場合に成り立つ極限の性質について理解し、簡単な極限を求めることができる。 ☐ $x = a$ で定義されていない関数についても $x \rightarrow a$ のときの極限値が存在することがあることを理解している。 ☐ $x \rightarrow a$ のとき発散する関数があること、およびその表記について理解し、簡単な極限を求めることができる。 ☐ 右側極限、左側極限が異なる関数について、それぞれの極限を求めることができる。 ☐ $x \rightarrow \pm\infty$ のときの関数の極限の表記について理解し、簡単な極限を求めることができる。 ☐ 指数関数、対数関数について、$x \rightarrow \pm\infty$ のときの極限を求めることができる。 ☐ 簡単な三角関数の極限を求めることができる。 ☐ 関数が $x = a$ で連続であることの定義を正しく理解している。 ☐ 定義に基づいて、関数が連続であるか連続でないかを調べることができる。 ☐ 連続関数の定義を理解している。閉区間で連続な関数が最大値、最小値をもつことを理解している。	ができる。 ☐ 不定形を解消するように工夫して式変形し、関数の極限を求めることができる。 ☐ 関数の極限についての等式から定数を求めることができる。 ☐ 右側極限と左側極限が異なる関数について、グラフを用いて極限について考察できる。 ☐ 不定形を解消するように工夫して式変形し、$x \rightarrow \pm\infty$ のときの関数の極限を求めることができる。 ☐ 関数の極限が簡単に求められない場合、はさみうちの原理を用いて極限を求めることができる。 ☐ $\frac{\sin x}{x}$ の極限を利用できるように適切に式変形し、三角関数を含む関数の極限を求めることができる。 ☐ 中間値の定理を直感的に理解しそれを用いて解の存在について考察できる。	☐ 関数の右側極限、左側極限の考え方に興味・関心をもつ。 ☐ $x \rightarrow \pm\infty$ のときの指数関数、対数関数の極限について、グラフを利用して理解を深めようとする。 ☐ $x \rightarrow \pm\infty$ のときの三角関数の極限などについて、グラフを利用して理解を深めようとする。 ☐ 連続でない関数があることに興味をもち、グラフを用いてそのことを調べようとする。	
--	---	---	---	--	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学B+数学C
学年・類型	2 全クラス	単位数	1+1
教科書	高等学校 数学B（数研出版）、高等学校 数学C（数研出版）		
副教材	NEW ACTION LEGEND 数学II+B（東京書籍） NEW ACTION LEGEND 数学C（東京書籍）		
科目目標	数列、統計的な推測、ベクトル、複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「週末課題及び休業期間の課題」に取り組み、内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数列、統計的な推測、ベクトル、複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力、大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 小テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 小テスト	① 週末課題及び休業期間の課題の提出状況及び取組状況 ② 課題考査・到達度テスト

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	【数学B】 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	☐ 数列の定義、表記について理解している。 ☐ 数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。 ☐ 等差数列の公差、一般項などを理解している。 ☐ 初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。 ☐ 数列が等差数列であることを証明できる。 ☐ 等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。 ☐ 自然数の和、奇数の和、偶数の和などが求められる。 ☐ 等比数列の公比、一般項などを理解している。 ☐ 初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。 ☐ 等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 ☐ 等比数列の和の公式を利用して、和の値から数列の一般項を求めることができる。	☐ 数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。 ☐ 等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 ☐ 等差数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 ☐ 項の正負と数列の和の増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察することができる。 ☐ 等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 ☐ 等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。	☐ 数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。 ☐ 等差中項の性質に興味をもち、問題解決に取り組もうとする。 ☐ 等差数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 ☐ 等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。 ☐ 等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 ☐ 複利計算に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

第2節 いろいろな数列 6. 和の記号Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	☐ 記号Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められる。 ☐ 第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。 ☐ 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 ☐ 数列の和S_nと第n項a_nの関係を理解し、数列の一般項が求められる。 ☐ 階差数列利用、和S_n利用では、初項の扱いに注意して一般項が求められる。 ☐ 和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。 ☐ 漸化式の意味を理解し、具体的に項を求めることができる。 ☐ 漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 ☐ おき換えを利用して、漸化式から一般項を求めることができる。 ☐ 初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 ☐ 数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。 ☐ $n \geq k$の場合に成り立つ不等式を、数学的帰納法を用いて証明できる。 ☐ ある整数の倍数であることを、文字を用いて表現できる。	☐ 数列の和を記号Σで表して、和の計算を簡単に行うことができる。 ☐ 和Σr^kについて、既に学んだ等比数列の和と捉えて求めることができる。 ☐ 数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。 ☐ 初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。 ☐ 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 ☐ 初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。 ☐ 複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 ☐ 自然数nに関する命題の証明には、数学的帰納法が有効であることを理解している。 ☐ 数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらを比較するなど、多面的に考察することができる。	☐ 自然数の和の公式を用いて自然数の2乗の和の公式が導けることに興味をもち、自然数の3乗の和の公式を導こうとする。また、さらに高い次数の累乗の和の公式についても考察しようとする。 ☐ 数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。 ☐ $(k+1) - f(k)$を用いる和の求め方に興味をもち、具体的な問題に活用しようとする。 ☐ 群数列に興味をもち、考察しようとする。 ☐ おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。 ☐ $a_{n+1} = pa_n + q$を満たす数列の階差数列について、具体的に考察しようとする。 ☐ 具体的な事象の考察に、漸化式を積極的に活用しようとする。 ☐ 数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	
--	--	---	--	--

2 学 期	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布	☐ 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 ☐ 確率変数の確率分布を求めることができる。 ☐ 確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ☐ 確率変数の期待値 $E(X)$ や分散 $V(X)$ などの計算式を理解して活用することができる。 ☐ 同時分布の意味を理解し、2つの確率変数の同時分布を求めることができる。 ☐ 確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。 ☐ 複雑な確率分布の期待値を、確率変数の和の期待値の公式などを利用して求めることができる。 ☐ 確率変数の独立について理解している。 ☐ 独立な確率変数の積の期待値を、公式を利用して求めることができる。 ☐ 独立な確率変数の和の分散を、公式を利用して求めることができる。 ☐ 反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。 ☐ 二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 ☐ 確率密度関数や分布曲線の定義を理解し、連続型確率変数について、確率を求めることができる。 ☐ 正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換できる。 ☐ 標準正規分布に従う確率変数 Z についての確率を求めることができる。 ☐ 標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。	☐ 試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。 ☐ 確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 ☐ 確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。 ☐ 具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。 ☐ 正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。 ☐ 正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。	☐ 確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。 ☐ 確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 ☐ 2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうかに注意しながら導こうとする。 ☐ 二項分布に興味・関心をもち、さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。 ☐ 二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差の公式について、確率分布の定義から導こうとする。 ☐ 二項分布のグラフに関心をもち、調べてみようとする。 ☐ 連続型確率変数について、離散型確率変数との違いに注目して捉えようとする。 ☐ 現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察	
-------------	--	---	--	---	--

3 学 期	第2節 統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定	☐ 日常の身近な問題を統計的に処理するのに、正規分布を利用できる。 ☐ 二項分布に従う確率変数に関する確率の計算を、正規分布に従う確率変数で近似して求めることができる。 ☐ 連続的な確率変数について理解し、その期待値と分散が求められる。 ☐ 復元抽出と非復元抽出について理解している。 ☐ 母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差を求めることができる。 ☐ 標本平均が確率変数であることを理解している。 ☐ 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。 ☐ 標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 ☐ 標本比率が二項分布に従う仕組みを理解し、正規分布で近似することで標本比率についての確率を求めることができる。 ☐ 推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ☐ 信頼区間の考え方をを用いて、母平均や母比率の推定ができる。 ☐ 仮説検定に関わる用語を適切に活用することができる。 ☐ 仮説検定の考え方をを用いて、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。	☐ 母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。 ☐ 母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 ☐ 標本の大きさnを大きくしたとき、標本平均がどのような分布になるか直感的に理解した上で、標本平均の値がどの範囲にどれくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。 ☐ 大数の法則について理解し、標本の大きさnが大きくなるときの標本平均の分布の変化の様子について考察できる。 ☐ 推定や信頼区間の考え方がわかる。 ☐ 仮説検定の考え方がわかる。 ☐ 片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。	☐ しようとする。 二項分布について、試行の回数nを大きくしたときの分布曲線の変化をコンピュータで見るなどして、正規分布に近づいていく様子を自ら確かめようとする。 ☐ 現実に行われている様々な調査が全数調査か標本調査か、またその方法を採用しているのはなぜかに興味をもち、それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。 ☐ 母集団や標本の特徴を理解しようとする。 ☐ 大数の法則に興味をもち、標本の大きさnが大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。 ☐ 母平均や母比率の推定に関心を示し、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。 ☐ 仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。	
----------------------	--	--	---	--	--

第2章 空間ベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	きる。 ☐ 円のベクトル方程式から，その中心の位置ベクトルや半径を求めることができる。 ☐ 空間の点と原点との距離が求められるようになる。 ☐ 平面上のベクトルについての定義や性質などは，空間においても同様に成り立つことを理解している。 ☐ 空間図形の中で，等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。 ☐ 空間図形において，ベクトルの和や差を考えることができる。 ☐ 空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し，具体的なベクトルを3つのベクトルで表すことができる。 ☐ ベクトルの成分表示について，平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し，ベクトルが等しくなるように成分を定めたり，成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 ☐ 成分表示された空間のベクトルの演算ができる。 ☐ 座標空間の2点で定められるベクトルを成分表示できる。 ☐ 成分表示された2つのベクトルのなす角を，内積を用いて求めることができる。	☐ 空間における点の表し方を理解し，座標平面や座標軸，原点に関して対称な点の座標を求めることができる。 ☐ 空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について，平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。 ☐ 空間ベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。 ☐ 座標空間の3点で定まる角の大きさを，ベクトルを活用して求めることができる。 ☐ ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。	共通点などを見出そうとする。 ☐ 座標空間における点の表し方を，座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。 ☐ 平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから，ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。 ☐ 空間のベクトルの成分表示について，平面上のベクトルの成分表示の拡張として捉えようとする。 ☐ 平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから，内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。	
5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	☐ 位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 ☐ 空間の4点が同じ平面上にある	☐ 位置ベクトルを活用して，空間の3点が一直線上にあることを証明できる。 ☐ 位置ベクトルの一意性を活用して，直線と平面の交点の位置	☐ 様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。	

	第3章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	条件を理解し、点の座標を定めることができる。 □ 座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。 □ 座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる。 □ 中心と半径が与えられた球面の方程式を求めることができる。 □ 複素数の絶対値の定義を理解し、与えられた複素数の絶対値を求めることができる。 □ 複素数の実数倍が複素数平面上で何を意味するか理解し、3点が1直線上にあるように複素数を定めることができる。 □ 共役複素数の性質を理解し、用いることができる。 □ ド・モアブルの定理を理解し、複素数のn乗を求めることができる。 □ 1のn乗根を求めることができる。 □ 複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。 □ 原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 □ 複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。 □ 複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し、利用することができる。	ベクトルを求めることができる。 □ ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。 □ 条件から中心と半径を考え、球面の方程式を求めることができる。 □ 球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。 □ 共役複素数や$-z$などを極形式でどのように表すか、その定義から考察できる。 □ 複素数の積の図形的な意味を活用して、正三角形の頂点となる複素数を求めることができる。 □ 複素数のn乗根がちょうどn個存在することを、極形式を用いて考察できる。 □ 1のn乗根の求め方をもとに、一般の複素数のn乗根を求めることができる。 □ 線分の内分点を表す複素数を活用して、線分の内分点や外分点を表す複素数や三角形の重心を表す複素数を求めることができる。 □ 点zと連動して動く点wが描く図形について、その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。 □ 半直線のなす角について、原点以外の点を中心とする回転と統一的に理解している。 □ 複素数平面上における半直線のなす角や線分の長さを活用して、三角形の形状について考察できる。	□ 座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し、座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。 □ 複素数が$a+bi$とは別の形で表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。 □ 複素数の積の図形的な意味から、ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。 □ 図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。 □ 複素数の方程式が表す図形について、複素数を$x+yi$とおくなどして、複数の方法で考察しようとする。 □ 複素数平面上の三角形の形状が1つの複素数で決定されることに興味をもち、三角形の形状を調べようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
--	--	---	---	---	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	理 科	科 目	物 理
学年・類型	2年・理系	単位数	3
教科書	総合物理1（啓林館）		
副教材	リードα物理基礎・物理（数研出版），物理研究ノート（博洋社），フォトサイエンス物理図録（数研出版）		
科目目標	物理的な事物・現象に主体的に関わり，見通しをもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する技能や態度を身に付けるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な見方・考え方を養う。		
学習方法	日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味を持ち，疑問に思ったことを確かめてみる。その際，教科書や副教材を中心に，物理的な事物・現象に対する概念や法則を暗記するのではなく，しっかりと理解する。また，課題発見学習や探究活動，グループワーク等を通して，思考力・判断力・表現力，主体的に学習に取り組む態度を養う。授業においては，毎時間後の復習を徹底し，理解を深める努力をする。計算力は必須なので，複雑な計算も必ず自分の手で行う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理的な事物・現象についての観察，実験などを行うことを通して，物理学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	物理的な事物・現象を対象に，探究の過程を通して，規則性を発見したり，認識を深めたりするための情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈，法則性の導出などの探究の方法が習得できている。また，報告書を作成したり発表したりして，科学的に探究することができる。	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり，それらに対する気付きから課題を設定し，見通しをもって観察，実験などに取り組み解決しようとするなど，科学的に探究しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考查（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 確認テスト	① 考查（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 確認テスト ③ 課題，実験レポートの内容	① 課題やノート，授業プリントへの取組状況や提出状況 ② 確認テスト ③ 実験レポートへの取組状況や提出状況 ④ 授業への取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1部 様々な運動 第1章 物体の運動 ○第1節 速度 ○第2節 加速度 ○第3節 落体の運動	☐ 変位や速度，加速度などの物体の運動の基本的な表し方について，直線運動・平面運動ともに理解する。 ☐ 等加速度直線運動や物体が落下する際の運動の特徴，及び物体にはたらく力と運動の関係について理解する。鉛直投射に加えて放物運動の見方・考え方を理解する。 ☐ 実験3「2球の空中衝突」(P. 53)を行い，2つの球がどのような運動をするかを予想し，確かめることができる。	☐ 物体の運動の様子をベクトルで図示したり，運動の経過を位置－時間($x-t$)や速度－時間($v-t$)のグラフで表現したりすることができる。 ☐ やってみよう「水平投射と自由落下」(P. 48)を行い，水平投射と自由落下の共通する特徴，異なる特徴を説明することができる。	☐ 物体の運動の表し方や直線運動・平面運動・落下運動に関心をもち，主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③ 主④
	第2章 力と運動 ○第1節 力 ○第2節 運動の法則 ○第3節 様々な力と運動	☐ 力の三要素や様々な種類の力の性質，力の合成・分解，力のつり合いについて理解する。 ☐ 運動の三法則や運動方程式をもとに力と運動の関係を定量的に理解する。	☐ 物体が運動状態，静止状態いかなる状態であっても，はたらく力を作図によって正確に表現することができる。 ☐ 作用・反作用の関係にある力やつりあいの関係にある力を正確に把握し，それぞれの関係を説明することができる。 ☐ やってみよう「慣性」(P. 68)を行い，実験を成功させる方法を考察・説明することができる。 ☐ 探究2～4(P. 69～P. 73)「一定の力がはたらくときの物体の運動」を行い，実験データから力，質量，加速度の関係について見いだすことができる。	☐ 様々な種類の力や運動の法則に関心をもち，力と運動の関係について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③ 主④

2 学	第3章 剛体のつり合い ○第1節 剛体のつり合い	☐ 剛体に力を加えた際に、並進運動や回転運動が起こり得ることを理解する。 ☐ 剛体にはたらく力のつり合いや重心について理解する。	☐ 剛体にはたらく力を「大きさ」「向き」「作用線」に注意しながら作図によって正確に表現することができる。 ☐ 重心や力のモーメントという観点から、物体の転倒条件について説明することができる。	☐ 大きさのある物体の力と運動の関係に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主④
	第4章 仕事とエネルギー ○第1節 仕事 ○第2節 運動エネルギー ○第3節 位置エネルギー ○第4節 力学的エネルギー	☐ 物理における仕事の定義や運動エネルギー、位置エネルギー、弾性エネルギー等について学び、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する。	☐ 振り子の運動やなめらかな曲線上の運動、ばね振り子の運動などの特徴を、力学的エネルギー保存の法則の観点から説明することができる。	☐ 仕事とエネルギーに関心を持ち、力学的エネルギーについて主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主④
	第5章 運動量と力積 ○第1節 運動量の保存 ○第2節 衝突と力学的エネルギー	☐ 運動量の変化と力積の関係や、物体が衝突・分裂・合体する際に成り立つ運動量保存について理解する。 ☐ 衝突の特徴を示す反発係数と物体のもつ力学的エネルギーの関係性を理解する。 ☐ 実験5「直線上の台車の衝突と合体、分裂」(P. 139)を行い、衝突や合体の前後の運動量の総和について、確かめることができる。 ☐ 実験6「床ではね上がりと力学的エネルギー」(P. 145)を行い、物体が床と衝突する際の反発係数と、衝突により失われた力学的エネルギーの割合を確かめることができる。	☐ 運動量の変化と力積の関係や運動量保存をベクトルで表現し、衝突などの際に物体がどのような運動をするかを判断することができる。 ☐ 反発係数の数値から、衝突の際に物体がどのような運動をするかを判断することができる。やってみよう「吹き矢の飛ぶ距離」(P. 135)を行い、吹き矢の飛距離の違いについて考察・説明することができる。	☐ 物体が衝突・分裂・合体する際の運動の特徴に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③ 主④
	第6章 円運動と単振動 ○第1節 円運動 ○第2節 慣性力	☐ 円運動や単振動などの周期的な運動の表し方とその性質、はたらく力について理解する。	☐ 円運動や単振動の速度、加速度、周期、角速度(角振動数)、向心力(復元力)を元に、力と運動の	☐ 円運動や単振動などの周期的な運動について関心を持ち、力と運動の関係について主体的に学習	知① 知② 知③

期	○第3節 単振動	☐ 非慣性系の立場で物体の運動を観測する場合、みかけの力である慣性力・遠心力を考慮して運動の様子を表したり、運動方程式を立てたりする必要があることを理解する。	関係や運動の様子について説明することができる。 ☐ 単振動の運動の経過を位置－時間 ($x-t$) や速度－時間 ($v-t$)、加速度－時間 ($a-t$) のグラフで表現することができる。 ☐ 探究6 (P. 177)「単振り子の周期」を行い、実験データから単振り子の周期が物体の質量や糸の長さとのような関係にあるかを見いだすことができる。	☐ に取り組もうとしている。 みかけの力である慣性力・遠心力に関心をもち、複数の観測者の立場から見る運動の様子の違いについて主体的に学習に取り組もうとしている。	思① 思② 思③ 主① 主② 主③ 主④
	第7章 万有引力 ○第1節 万有引力	☐ ケプラーの法則や万有引力の法則を元に、天体や人工衛星、探査機などの運動について理解する。	☐ 楕円軌道上を運動する際の力と運動の関係や運動の特徴について説明することができる。	☐ ケプラーの法則や万有引力の法則に関心をもち、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③ 主④
	第2部 熱 第1章 熱とエネルギー ○第1節 熱と温度 ○第2節 熱量 ○第3節 熱と仕事	☐ 原子や分子の熱運動と温度との関係を定性的に扱い、物質の三態や物理における熱という概念について理解する。 ☐ 熱の移動や熱量の保存、比熱、熱容量について理解する。 ☐ 熱と仕事の変換について理解する。	☐ 物理学における熱と温度の違いを、熱運動という用語を用いて説明することができる。 ☐ 比熱や熱容量をもとに、物体の熱伝導性について正確に判断することができる。	☐ 熱とエネルギーに関心をもち、熱運動や熱量の保存、熱と仕事の関係について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主④
	第2章 気体分子の運動 ○第1節 気体の状態方程式 ○第2節 気体分子の熱運動 ○第3節 熱力学第1法則	☐ 気体の状態というマクロ (巨視的) な世界と気体分子の熱運動というミクロ (微視的) な世界との関係性について理解する。	☐ 気体の圧力について、気体分子の熱運動の観点から定量的に説明することができる。 ☐ 気体の状態変化に伴って熱・仕	☐ 気体の状態を表す圧力・温度・体積のようなマクロ (巨視的) な量と、気体分子の速さのようなミクロ (微視的) な量との関係に関心	知① 知② 知③ 思①

	○第4節 気体の状態変化と熱・仕事 ○第5節 様々なエネルギーとその利用	□ ボイル・シャルルの法則や熱力学第1法則などの気体の状態変化や熱・仕事に関する式について理解する。 □ 熱と仕事(エネルギー)の変換や、様々なエネルギー、熱現象の不可逆性について理解する。	事などのエネルギーがどのように移動するのかを判断することができる。 □ やってみよう「ボイルの法則」(P.215)を行い、気体の圧力と体積の間にある規則性を見いだすことができる。	をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 □ 気体の状態変化と熱・仕事の関係について関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	思② 思③ 主① 主② 主③ 主④
3 学 期	第3部 波 第1章 波の性質 ○第1節 正弦波の表し方 ○第2節 波の性質	□ 波の発生や伝わり方、波の種類、正弦波、波の重ね合わせ、干渉・反射・屈折・回折などの波の諸性質について理解する。	□ 波の性質や現象について、変位-位置(y-x)・変位-時間(y-t)のグラフや、作図によって表現することに加え、数式を用いて定量的に表すことができる。	□ 波の性質に関心をもち、波の特徴や現象について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主④
	第2章 音 ○第1節 音の性質 ○第2節 音源の振動 ○第3節 ドップラー効果	□ 音波が縦波であることや音の三要素、可聴音、超音波について理解する。 □ 共振・共鳴・うなりなどの音に関する現象について、発生の原理や楽器への応用について理解する。 □ 音波や観測者が動いた際に起こるドップラー効果の要因について定量的に理解する。 □ やってみよう「音と振動」(P.289)を行い、可聴音の範囲について確かめることができる。	□ おんさ、楽器、マイク、パソコン等を用いて様々な音の波形を観察し、音の三要素について説明することができる。 □ 干渉・反射・屈折・回折・うなりなどの音の現象について具体例を挙げて説明することができる。 □ ドップラー効果が起こる際、観測者のみが動く場合と音源のみが動く場合とで、発生要因が異なることを定量的に説明することができる。 □ やってみよう「試験管笛」(P.303)を行い、試験管内の空気柱の長さとする音の振動数との関係性を見いだすことができる。 □ 実験9「気柱の共鳴」(P.301)を行い、測定データから発音体の振動数を見だし、結果について考察・説明することができる。また、開口端補正による実験結	□ 音に関心をもち、共振・共鳴・うなりやドップラー効果などの音に関する現象について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③ 主④

			果の影響について説明することができる。		
第3章 光 ○第1節 光の性質 ○第2節 レンズと球面鏡 ○第3節 光の回折と干渉	□ フィゾーやフーコーが行った光速の測定方法について理解する。 □ 光を波として捉え、光の伝わり方や干渉・反射・屈折・回折・分散・散乱・偏光などの光の諸性質について理解する。 □ レンズや球面鏡の写像公式や、光線の作図方法について理解する。 □ 光の回折と干渉について、位相や光路差の概念を利用し、光の干渉条件を定量的に理解する。 □ 実験10「ヤングの実験」(P. 340)を行い、干渉についての理論値と実験値の比較をすることで干渉の様子を確かめることができる。	□ ①光の反射、屈折、分散、偏光といった現象や、光の波長や速さについて考えることができる。 □ レンズや鏡に入射した光線の入射後の進路を作図によって表現することができる。また、写像公式をレンズや球面鏡の幾何学的な側面から導出することができる。 □ スリットや薄膜による様々な干渉について、干渉条件を定量的に説明することができる。	□ 光の性質に関心をもち、眼鏡・カメラ・顕微鏡のような光学機器への応用や光がもたらす現象について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③ 主④	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	化学基礎（前期4）化学（後期4）
学年・類型	理系	単位数	4
教科書	化学基礎（数研出版）化学（数研出版）		
副教材	セミナー化学基礎＋化学（第一学習社），サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）		
科目目標	化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。また，化学的な事物・現象を観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習方法	教科書を中心にしたプリント学習を行う。問題演習では，プリントと問題集を適宜利用する。また，日常生活や社会の化学的な事物・現象について観察，実験などを行い，観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに，科学的に探究する力を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学的な事物・現象についての実験などを通して，日常生活や社会の化学的な事物・現象について理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。	日常生活や社会の化学的な事物・現象について問題を見だし，見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	日常生活や社会の化学的な事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査(知識・技能の定着状況を評価する問題を出題) ② 確認テスト ③ 授業(実験)への取り組み状況	① 定期考査(思考・判断・表現について評価する問題を出題) ② 確認テスト ③ 課題や実験プリントの内容 ④ 授業への取り組み状況	① 課題やノート，授業プリントへの取り組み状況や提出状況 ② 確認テスト ③ 実験や実験プリントへの取り組み状況や提出状況 ④ 授業への取り組み状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	化学基礎 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	☐ 混合物を分離する操作に、ろ過、蒸留、分留、昇華、再結晶、抽出、クロマトグラフィーなどの方法をあげられる。混合物をろ過や蒸留、再結晶、クロマトグラフィーにより純物質に分けることができる。 ☐ 炭素、酸素、リン、硫黄の同素体をあげることができる。代表的な成分元素の検出法を理解している。同素体の実験による生成・観察などができる。 ☐ 絶対温度とセルシウス温度の関係を理解している。気体分子の熱運動を視覚的に示すことができる。	☐ 純物質と混合物の違いが何であるか説明できる。 ☐ いろいろな物質について、単体と化合物に分類することができる。 ☐ 物質を加熱したり冷却したりしたときの、温度変化をグラフに表すことができる。	☐ 身のまわりの物質が純物質や混合物に分類されることに興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 原子と元素の意味や元素という概念に興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 物質の三態変化は、構成粒子の状態がどのように変化して起きているのか興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
	第2章 物質の構成粒子	☐ 原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。電子が負の電荷を帯びた粒子であることを示すことができる。 ☐ イオン化エネルギーの概念と周期表上での傾向を説明できる。イオンの電子配置を模型により示すことができる。 ☐ 元素の、典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布、および同族元素について理解している。1属元素と2属元素の性質の差異を実験により確認することができる。	☐ 原子について、どのような粒子から構成されているかを説明することができる。 ☐ 原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいか判断できる。イオンのなりやすさについてイオン化エネルギーや電子親和力の値の大小と関連させて考えることができる。 ☐ 周期表の中に周期律が見いだせること、周期律は価電子の数の周期的な変化によることに気づく。	☐ 原子はいくつかの粒子から構成されていることに気づく。同じ元素でも粒子の構成が異なるものがあることに興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 原子とイオンの違いについて疑問をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 周期表上の元素の配列のしかたについて興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④

第3章 粒子の結合	☐ イオン結晶を構成する陽イオンと陰イオンの種類から、イオン結晶の名称と組成式の組み立て方を理解している。イオンからなる物質の特徴を示すことができる。 ☐ さまざまな分子を電子式、構造式で表し、その構造を考えることができる。分子の中の原子どうしの結合を、模型などを用いて表すことができる。 ☐ 極性を電気陰性度の違いによる電荷のかたよりと分子の形から理解している。極性分子と無極性分子の性質の差異を実験により確認することができる。 ☐ 分子からなる物質、共有結合の結晶、高分子化合物の構造・粒子間にはたらく力とその性質の関係を理解している。ダイヤモンド、黒鉛中の原子の結合を分子模型など表すことができる。 ☐ 金属もイオン結晶や共有結合の結晶と同じように、組成式で表されることを理解している。金属の特徴を実験で示すことができる。	☐ イオン結晶中のイオンの配置を示した模型について説明することができる。 ☐ 価標を考えることによって分子の構造を予想することができる。 ☐ 分子の形を予想して、極性分子と無極性分子に分類できる。 ☐ 共有結合の結晶の性質を、共有結合の強さ、結晶構造、電子から説明することができる。 ☐ 金属特有の性質は、金属結合が自由電子によるものであることが原因であることに気づく。	☐ 身のまわりにあるイオン結晶の性質に興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ イオン結合、共有結合といった化学結合に興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 分子には極性分子と無極性分子があることに興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 分子からなる物質、共有結合の結晶、高分子化合物にどのような物質があるか興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 金属特有の性質に興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	☐ 原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。 ☐ 原子の相対質量をもとに、分子の質量を考えることができる。 ☐ 気体の場合の1molの体積は共通であることを理解する。濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。実	☐ 異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。 ☐ ある質量の物質の中に、原子や分子などが何個含まれているかを考えることができる。 ☐ モル質量の概念を使い、粒子数・質量と物質に関する計算	☐ 同じ原子でも異なる質量をもつものがあることに興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 原子1個はいかに小さなものであるかを実感する。多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということ	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②

	第2章 酸と塩基の反応	際の実物の 1mol 分の量を示すことができる。実際の実物の量を物質質量で表すことができる。 ☐ 化学反応における、物質質量、粒子の個数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。 ☐ 化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積の変化でとらえることができる。 ☐ 酸・塩基の価数、電離度などの考え方があることを理解している。 ☐ H^+ の授受が実際に行われている反応を確認することができる。 ☐ 水溶液中の H^+ の濃度を pH で表す方法を理解している。身のまわりの物質の水溶液の pH を知る方法を身につけている。 ☐ 滴定曲線における pH 変化、中和点、使用できる指示薬について理解している。 ☐ 中和滴定により未知の酸や塩基の濃度を既知の塩基や酸を用いて測定することができる。 ☐ 中和滴定で使用するホールピペット、ビュレット、メスフラスコなどの器具を正しく扱うことができる。 ☐ 酸性塩・塩基性塩・正塩などの分類があることを理解している。 ☐ 塩の水溶液をつくり pH メーターなどにより、pH を測定する。	ができる。 ☐ 正しい化学反応式を表すことができる。化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 ☐ 酸・塩基の性質を H^+ と OH^- で考える方法と、H^+ の授受で考える方法から酸と塩基を見きわめることができる。 ☐ pH の値から酸性、塩基性の強弱が判断できる。水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係からある水素イオン濃度における水酸化物イオン濃度を求めることができる。 ☐ 酸・塩基の価数は中和する際の量的関係に重要な要素を占めることに気づく。 ☐ 塩の水溶液の酸性・塩基性が判断できる。	とに気づく。 ☐ 多くの化学変化は化学反応式であらわされることがわかる。化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。 ☐ 酸とは何か、塩基とは何か、水もまた一部が電離しているということに興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 中和反応は本質的には H^+ と OH^- の反応であることに気づく。中和反応と電離度がどのように関係するかを知ろうとする。 ☐ 同一の酸と塩基から生成する塩でも、複数の種類の塩が生じることがあることに気づく。	主③ 主④ 知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
--	--------------------	---	--	--	--

2 学 期	第3章 酸化還元反応 電池と電気分解	☐ 電子の授受が酸化還元の本質であることを理解している。 ☐ 酸化還元反応の量的関係を数値計算により求めることができる。 ☐ 酸化還元反応の進行を色の変化など、実験を通して視覚的に判断できる。 ☐ 通常酸でも反応する金属と、王水や酸化力をもつ酸で反応する金属との違いを理解している。 ☐ 金属がイオンになる場合のなりやすさを実験から判断できる。 ☐ 金属の精錬の方法について理解している。 ☐ ダニエル電池、鉛蓄電池、燃料電池について、しくみと反応を理解している。 ☐ 燃料電池、ダニエル電池、ボルタ電池、鉛蓄電池をつくることことができる。 ☐ ファラデーの法則を理解し、電気分解に関する問題を解くことができる。 ☐ 実験から、流れた電気量と生成する物質の量が比例関係にあることを確認できる。	☐ 酸化還元反応には必ず電子の移動が伴うことに気づく。 ☐ 酸化数を求めることによって酸化還元を考察することができる。 ☐ 酸化還元反応の化学反応式を酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくることことができる。 ☐ 酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを読み取ることことができる。 ☐ 金属がイオンになることは電子を放出することであり、酸化還元反応であることに気づく。 ☐ 金属固有の性質もイオン化傾向で考えることことができる。 ☐ 金属の精錬は酸化還元反応を利用したものであることに気づく。 ☐ 二次電池の放電と充電について理解している。 ☐ 水溶液を電気分解したときに起こる反応を、電解質と電極から判断できる。	☐ 酸と化合することが酸化、酸素を失うことが還元であることに気づく。 ☐ 酸化還元の複雑な化学反応式も、そのもととなる反応式と電子の授受を考えることによって完成させられるようになる。 ☐ 金属樹が生成することや身近にある電池の構造や反応のしくみ、電気分解の利用例について興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
-------------	-------------------------------	---	--	--	---

化学 第1編 物質の状態 第1章 粒子の結合と結晶の構造	☐ 価電子の数と元素の性質には、重要な関係があることを理解している。 ☐ 原子やイオンの電子配置を模型により示することができる。 ☐ NaCl 型、CsCl 型、ZnS 型の結晶格子について、配位数、単位格子中の原子数などを算出することができる。 ☐ 結晶格子の立体的構造を理解している。 ☐ いろいろな分子を電子式、構造式で表すことができる。配位結合について理解し、錯イオンの構造を説明することができる。 ☐ 分子の構成原子の種類と分子の形から、極性分子と無極性分子に分類できることを理解している。 ☐ 電気陰性度の大きな原子を理解している。 ☐ ダイヤモンドと黒鉛の電気伝導性の違いを、その構造から理解している。 ☐ ダイヤモンド、黒鉛、ケイ素、二酸化ケイ素の構造を説明することができる。 ☐ 結晶格子の配位数、単位格子中の原子の数、充填率、アボガドロ定数から原子量の算出をすることができる。 ☐ 金属もイオン結晶や共有結合結晶と同じように分子をつくらないため、組成式で表されることを理解している。また、化学結	☐ 原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいか判断できる。 ☐ イオン結晶は陽イオンと陰イオンによる電荷がつり合い、電気的に中性であることを理解している。 ☐ 分子内の原子は共有結合により、安定な貴ガスと同じ電子配置となることに気づく。 ☐ 分子間力の強弱と、沸点の高さの関係に気づく。 ☐ 水素結合がはたらく物質の特異性について理解している。 ☐ 共有結合結晶は結合力の強さから、他の化学結合からなる物質と比較して、融点・沸点が高く硬くなることに気づく。 ☐ 金属特有の性質は、金属結合の自由電子によるものであることを理解している。 ☐ 結晶質と非晶質の構造の違いを理解している。	☐ 原子は単独の粒子ではなく、いくつかの粒子から構成されていることや身のまわりにあるイオン結晶の性質、分子の成りたち、水の特異性、共有結合結晶の性質、金属の性質、アモルファスなどに興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
---	--	---	---	---

	合であるイオン結合，共有結合，金属結合の区別がつけられる。結晶格子の模型をつくり，原子の並び方や単位格子における原子の詰まり具合について理解している。 ☐ アモルファス金属がもつ，通常の金属にはない特徴を理解している。			
第2章 物質の三態と状態変化	☐ 気体分子の運動エネルギーの大きさには分布があり，温度が上がると分布が全体的にエネルギーの大きなほうに移動することを理解している。水銀気圧計から圧力を読み取ることができる。 ☐ 水の状態変化の過程で出入りする熱量を，比熱や融解熱・蒸発熱などを用いて求めることができる。粒子間にはたらく力と物質の融点・沸点の関係を理解している。 ☐ 蒸気圧を理解し，蒸気圧曲線から物質の状態や変化・性質を読み取ることができる。圧力を低下させると，100℃以下でも水は沸騰することを実験により確認することができる。	☐ 大気圧と水銀柱の下向きの圧力のつり合いを利用した大気圧測定を理解している。 ☐ 物質を加熱したときの熱量に対する温度変化のグラフで，物質の状態や融解熱・蒸発熱について考察することができる。 ☐ 蒸気圧曲線を使って，外圧が変化した場合の沸点を求めることができる。	☐ 拡散が起こること，大気圧の生じる原因は構成粒子の熱運動であることに気づく。 ☐ 物質の三態において，構成粒子がどのような状態にあるかについて興味をもち，主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 物質の状態図を理解し，水の特徴に気づく。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
第3章 気体	☐ ボイルの法則，シャルルの法則，ボイル・シャルルの法則を使うことができる。 ☐ ボイルの法則を検証できる。 ☐ 気体の状態方程式を使って計算問題が解ける。 ☐ 気体の状態方程式を使って，実験により分子量を求めることが	☐ 気体の変化から，ボイルの法則，シャルルの法則，ボイル・シャルルの法則を導くことができる。また，セルシウス温度と絶対温度の関係を理解し，変換ができる。 ☐ 気体の体積，圧力，温度，物質量的変化をグラフ化して考える	☐ 気体の圧力，温度を変えたときの体積の変化，気体の体積，圧力，温度，物質量的関係に興味をもち，主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 気体を混合したとき気体分子の熱運動により，どのような変化がおこるか，また，理想気体と	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②

	できる。 ☐ 水上置換したときの捕集した気体の分圧と水の蒸気圧、全圧の関係を理解している。 ☐ 水上置換で捕集した気体の分子量を実験より求めることができる。 ☐ 実在気体はどのような条件にすると理想気体に近くなるか理解している。 ☐ 蒸気圧がかかわる気体の考え方について理解している。	ことができる。 ☐ ドルトンの分圧の法則を理解し、成分気体の分圧や混合気体の全圧を求めることができる。 ☐ 分子間力、分子自身の体積が、気体の圧力、体積にどのような影響を与えるか考えることができる。	実在気体のずれについて興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	主③ 主④
第4章 溶液	☐ 水和という現象を理解し、水に溶解する物質と溶解しない物質に分類できる。 ☐ 質量パーセント濃度、モル濃度、質量モル濃度といった濃度の表し方を理解している。 ☐ 実験により、溶解度曲線を作成できる。 ☐ 浸透圧や浸透圧測定の方法を理解している。 ☐ ファンツァーの法則を用いて、浸透圧から溶質の分子量を求めることができる。 ☐ 凝固点降下や沸点上昇から物質の分子量を求めることができる。 ☐ 凝析を効果的に行わせる方法を理解している。コロイド溶液を生成し、凝析、チンダル現象、電気泳動といったことを実験で確かめることができる。	☐ 電解質と非電解質に物質を分類できる。 ☐ 固体の溶解度、気体の溶解度（ヘンリーの法則）について理解し、それに関連する問題を解くことができる。 ☐ 沸点上昇、凝固点降下を理解し、それに関連する問題を解くことができる。 ☐ コロイドの性質がコロイドの大きさや電荷が原因であることに気づく。	☐ 物質の溶解性や気体が液体に溶ける現象に興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧など溶液の性質に興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ コロイドについて興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④

3 学 期	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	☐ ヘスの法則を使って、不明な反応エンタルピーを求めることができる。 ☐ 結合エネルギーと反応熱の関係を理解している。化学反応に伴う熱の出入りを実験により確認できる。 ☐ 光化学反応や化学発光を理解している。	☐ 熱化学方程式の書き方と意味を理解している。 ☐ 化学反応には光エネルギーを放出、または吸収して進む反応があることを理解している。	☐ 化学反応には発熱反応と吸熱反応があることに気づく。 ☐ 光が関係する化学反応に興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
	第3章 化学反応の速さとしくみ	☐ 同じ反応でも着目する物質によって反応速度が異なることを理解し、化学反応式の係数の関係を使って反応速度を求めることができる。 ☐ 反応速度と濃度、温度、触媒、表面積の関係を理解している。実験により温度による反応速度の変化を確認することができる。また、実験により触媒による反応速度の変化を確認することができる。 ☐ 触媒を加えると活性化エネルギーは変化するが、反応熱は変化しないことを理解している。	☐ 反応速度の求め方を理解している。 ☐ 反応速度と反応物の濃度の関係を反応速度式で表すことができる。実験結果より速度定数を求めることができる。 ☐ 化学反応でのエネルギー変化における活性化エネルギーと反応熱について理解している。	☐ 化学反応の速さや反応条件を変えると、化学反応の反応速度が変化すること、化学反応が進むしくみについて興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
	第4章 化学平衡	☐ 化学平衡の法則を理解し、平衡定数を求めることができる。また、平衡状態での物質の物質量を求めることができる。 ☐ ハーバー・ボッシュ法において、温度、圧力、触媒などの条件がどのようにして決められているかを理解している。 ☐ 平衡移動の原理を実験により確認できる。	☐ 化学反応が平衡状態に達する過程における、物質量的変化や反応速度の変化を考えることができる。 ☐ 平衡移動の原理を理解し、反応条件を変えたときの平衡移動の方向を判断できる。 ☐ 電離平衡を理解し、電離定数や水素イオン濃度を求めることが	☐ 化学反応には可逆反応と不可逆反応があることや平衡移動の原理、緩衝作用に興味をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④

	☐ 弱酸・弱塩基の遊離，塩の加水分解，緩衝液，溶解度積について理解している。 ☐ pH の測定から酢酸の電離定数を求めることができる。 ☐ 金属塩の生成から沈殿生成と溶解度積の関係を確認できる。	できる。また，水のイオン積を用いて pH を求めることができる。		
第3編 無機物質 第1章 非金属元素	☐ 元素は典型元素や遷移元素に分類されることを理解している。 ☐ 同族元素には，特定の名称をもつものがあることを理解している。 ☐ 水素のおもな性質を示すことができる。 ☐ 貴ガス元素の単体は身近なところでも使われていることを知っている。 ☐ ハロゲン元素の単体やその化合物の性質を理解している。 ☐ ハロゲン元素の代表として塩素の性質を実験により確認することができる。 ☐ 酸素や硫黄の単体やその化合物の性質を理解している。 ☐ 硫酸，硫化水素，二酸化硫黄などの性質を実験により確認することができる。 ☐ 窒素やリンの単体やその化合物の性質を理解している。 ☐ ケイ素の化合物が身近に用いられていることを理解している。 ☐ 水ガラスからシリカゲルをつく	☐ 周期表を見て，いくつかの元素のイメージをいざくことができる。 ☐ 水素は非金属元素であるが，1族に属していて，ほかの同族の元素とは性質が異なることを理解している。 ☐ ハロゲンの酸化力の違いを理解している。 ☐ 接触式硫酸製造法の原理を理解し，量的関係を考えることができる。 ☐ ハーバー・ボッシュ法やオストワルト法の原理を理解し，量的関係を考えることができる。	☐ 近年発見された新元素や身近な話題として水素がとりあげられていることに興味をもち，主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 貴ガス元素は空気中に含まれており身近な存在であることに気づく。 ☐ 身近に使われているハロゲンの化合物や酸素・オゾン・硫黄などの物質に興味をもち，主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ 窒素はいろいろな酸化数をとることや 14 族元素には非金属元素である炭素・ケイ素，金属元素であるスズや鉛が存在することに興味をもち，主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④

		り、シリカゲルは強い吸着性をもつことを確認することができる。代表的な気体発生法を化学反応式で表すことができる。			
--	--	---	--	--	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物
学年・類型	2年理系（生物選択）	単位数	3
教科書	生物（数研出版）		
副教材	二訂版ニュースステージ生物図表（浜島書店）、リードα生物（数研出版）		
科目目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
学習方法	授業中心の学習を行い、教科書や副教材を活用し、知識を身につけ、小テストで定着の確認を行う。身につけた知識を活かし、考える力を身につけるために実験を行ったり、定期考査に思考問題を取り入れる。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身についている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知能・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②学習の準備シート（知識の整理） ③実験プリントへの取組状況（知識・結果等の記述）	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②実験プリントへの取組状況（考察） ③単元のまとめシートの記入状況（授業の考察）	①課題考査 ②長期休業中の課題及びオンライン課題（スタディサプリ等）の取組状況 ③単元のまとめシートの記入状況（感想）

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価	
知識・技能	40%
思考・判断・表現	40%
主体的に学習に取り組む態度	20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第7章 生物群集と生態系 第1節 個体群の構造と性質	☐ 個体群の成長には個体群密度が関係していることを理解する。 ☐ 個体群の個体数の変化には、その個体群の年齢構成や年齢ごとの死亡率などが影響することを理解する。	☐ 標識再捕法で個体数が推定できる理由を、対象となる生物の個体群の性質などを踏まえて説明することができる。 ☐ 与えられた条件をもとに、個体群の個体数を推定することができる。 ☐ 生存曲線のそれぞれの型が有利になる生息環境について、その生物がおかれている状況と年齢ごとの死亡率を関連させて推測し、説明することができる。	☐ 個体群の構造と性質に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	第2節 個体群内の個体間の関係	☐ 群れや縄張りについて、その大きさに応じて生じる利益と不利益の兼ね合いによって、最適な大きさが存在していることを理解する。 ☐ 個体群内で見られる個体どうしの社会的な関係とその利益を理解する。	☐ 最適な群れの大きさを決める要因を理解し、群れのおかれた環境に応じて時間の配分率のグラフがどのように変化するかを説明することができる。 ☐ 群れを形成するアユの体長について、個体群密度との関係を考えて説明することができる。	☐ 個体群内の個体間の関係に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
	第3節 異なる種の個体群間の関係	☐ 生物群集には、捕食・被食や種間競争、共生などの種間関係があることを理解する。 ☐ 生態的地位(ニッチ)の概念を理解する。 ☐ 生態系内で多種の共存を可能にしているしくみを理解する。	☐ 3種のゾウリムシのなかまの飼育時の個体群密度の変化の資料に基づいて、生活上の要求の違いによって異種の個体群が共存できていることを見いだすことができる。 ☐ 2種のフジツボの成体の分布が分かれることについて、種間競争や乾燥への耐性と関連づけて説明することができる。 ☐ エゾアカガエルの実験結果について、捕食者の存在の有無を踏まえて理由を考察することができる。	☐ 異なる種の個体群間の関係に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	

第4節 生態系の物質生産と物質循環	☐ 生産者による物質生産によって生態系内の生物に有機物やエネルギーが供給されることを理解する。 ☐ 生態系では食物連鎖を通じて物質が循環し、エネルギーが移動していることを理解する。	☐ 現存量当たりの純生産量の生態系ごとの違いについて、その生態系を構成する生産者の生産構造と関連づけて説明することができる。 ☐ 生態系におけるエネルギー量とエネルギー効率を計算することができる。	☐ 生態系の物質生産と物質循環に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
第5節 生態系と人間生活	☐ 生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。 ☐ 人間活動が生態系に与える影響の例として、窒素排出量の増加や生息地の分断化などがあることを理解する。	☐ 施肥による窒素の増加とサンゴ礁の破壊に関する資料に基づいて、人間活動が生態系に影響を及ぼしていることを見いだすことができる。 ☐ 植林活動と海の豊かさの関係について、学習したことをもとに、資料などにまとめて自分の言葉で説明することができる。	☐ 生態系と人間生活に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化	☐ 生命の起源について、化学進化を経て生命が誕生したことを理解する。 ☐ 細胞の進化によって地球環境が変化したり、地球環境の変化が進化に影響したりしてきたことを理解する。	☐ 学習したことをもとに、最初の生物が地上ではなく海洋中で誕生した理由について考え、説明することができる。	☐ 生命の起源と生物の進化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
第2節 遺伝子の変化と多様性	☐ 生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解する。 ☐ 突然変異が遺伝的な多様性をもたらすことを理解する。	☐ 遺伝子の変化と形質の変化を示した資料を比較し、遺伝子が変わると、遺伝子をもとにつくられるタンパク質が変化し、その結果形質が変化することを見いだすことができる。	☐ 遺伝子の変化と多様性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
第3節 遺伝子の組み合わせの変化	☐ 有性生殖では、減数分裂・受精を経て遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。 ☐ 減数分裂の過程で、染色体の乗換えにより遺伝子の組換えが起こることを理解する。	☐ 無性生殖の場合、親と子で遺伝子の組み合わせがどうなるのかを考え、説明することができる。	☐ 遺伝子の組み合わせの変化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	

2 学 期	第3節 遺伝子の組み合わせの変化	☐ 連鎖と組換えのしくみを理解する。 ☐ 性染色体について理解する。	☐ ショウジョウバエの交配実験の結果を示した資料に基づいて、遺伝子の組み合わせが変化し多様化していることを見いだすことができる。		
	第4節 進化のしくみ	☐ 自然選択と遺伝的浮動によって遺伝子頻度が変化することを理解する。 ☐ 隔離を経て種分化が生じることを理解する。	☐ 異なる種の親から子が生まれることはあるが、その子からは子が生まれない理由を考え、説明することができる。 ☐ 鎌状赤血球貧血症とマラリアの発生に関連がある理由について考え、説明することができる。	☐ 進化のしくみに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
	第5節 生物の系統と進化	☐ 塩基配列やアミノ酸配列によって、生物の系統を推定できることを理解する。 ☐ ドメイン、界、門などの分類群について理解する。	☐ あるタンパク質のアミノ酸配列を複数種の生物で比較した資料に基づいて、アミノ酸配列の差異をもとに生物の系統が推定できることを見いだすことができる。	☐ 生物の系統と進化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
	第6節 人類の系統と進化	☐ 人類の系統を理解する。 ☐ 人類は直立二足歩行を行うという点で他の生物とは異なることを理解する。	☐ 7種類の霊長類について、雑種DNAの熱安定性に関するデータをもとに系統を推定し、さらに分岐年代を推定することができる。 ☐ 直立二足歩行を行うことのデメリットについて考えたり調べたりしてまとめ、説明することができる。	☐ 人類の系統と進化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
	第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞	☐ 細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。 ☐ 生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。	☐ ミトコンドリアや葉緑体が、核とは別の独自のDNAをもっている理由を考え、説明することができる。 ☐ 生体膜において、リン脂質分子がどのように配置されているかを、リン脂質分子の構造をもとに考えることができる。	☐ 生体物質と細胞に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主②

	第2節 タンパク質の構造と性質	☐ 細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。 ☐ タンパク質の構造と機能との関係について理解する。	☐ タンパク質の立体構造が、タンパク質の機能と密接に関係していることを理解し、説明することができる。	☐ タンパク質の構造と性質に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	主③
	第3節 化学反応にかかわるタンパク質	☐ 酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。 ☐ 酵素反応を調節するしくみについて理解する。	☐ 酵素の活性を阻害する薬について、文献やインターネットを用いて調べることができる。	☐ 化学反応にかかわるタンパク質に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
	第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	☐ 生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。 ☐ 情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。	☐ 尿崩症の原因を、腎臓の細胞におけるアクアポリンの存在と関連づけて考えることができる。また、尿崩症の治療法について考え、説明することができる。 ☐ 情報伝達物質を介した細胞間の情報伝達がうまくいかない場合の原因について、これまでに学習した生命現象を例にあげて説明することができる。	☐ 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
3 学 期	第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー	☐ 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。	☐ 生体内の化学反応のうち、酸化還元反応を伴う反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、説明することができる。	☐ 代謝とエネルギーに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主②

第2節 呼吸と発酵	☐ 呼吸では有機物が酸化され、その際に取り出されたエネルギーを用いてATPが合成されることを理解する。 ☐ 発酵では酸素を用いずに有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。	☐ 呼吸と発酵では、グルコース1分子から得られるATP量に大きな違いがある理由を説明することができる。 ☐ 呼吸基質と呼吸商の関係を理解し、与えられた呼吸商をもとに、各呼吸基質の分解に使われた酸素の割合を計算することができる。	☐ 呼吸と発酵に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	主③
第3節 光合成	☐ 光合成では、光エネルギーを用いてATPとNADPHが合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。	☐ 光リン酸化と酸化的リン酸化の共通点を説明することができる。 ☐ 光合成において、葉緑体のチラコイド内外のH ⁺ の濃度差と、ATP合成速度の関係を調べるのに必要な実験を考え、説明することができる。 ☐ ATP合成酵素の基本構造が原核生物や真核生物の間で共通している理由について、進化の観点から仮説を立て、説明することができる。	☐ 光合成に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	
第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製	☐ DNAの複製のしくみを理解する。	☐ DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製のしくみを見いだすことができる。 ☐ 岡崎フラグメントの存在を示唆する実験データに基づいて、岡崎フラグメントが存在することを論理的に説明することができる。	☐ DNAの構造と複製に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
第2節 遺伝情報の発現	☐ 遺伝情報の発現のしくみを理解する。	☐ 真核生物と原核生物の遺伝情報の発現の過程を表した資料を比較し、遺伝子発現の過程の違いを見いだすことができる。 ☐ DNAの塩基では、ウラシルではなくチミンが用いられている理由を考え、説明することができる。	☐ 遺伝情報の発現に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	地学基礎
学年・類型	2年・文系	単位数	2
教科書	高等学校 地学基礎		
副教材	新課程 二訂版 スクエア最新図説地学 地学基礎研究ノート		
科目目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。また、地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
学習方法	教科書の単元項目の内容を説明できるようになること。単元と単元のつながりを意識し、大単元の説明ができるようになること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けています。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト	①定期考査 ②探究活動のレポート等	①課題 ②やり直しノート ③課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について	
知識技能	・・・40%
思考・判断・表現	・・・40%
主体的に学習に取り組む態度	・・・20%

学 期	学習内容	評価基準（到達目標B基準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1篇 活動する地球 第1章 地球の構造 第1節 地球の形と大きさ	☐ エラトステネスが地球の大きさを測定した方法を理解する。 ☐ 緯度差1°の経線弧の長さと同転だ円体の形状との関係を理解する。 ☐ 地球だ円体の偏平率から、地球がほぼ球形であることを理解する。 ☐ 地球表面の凹凸の分布についての特徴を理解する。	☐ エラトステネスが地球の大きさを測定した方法について説明できる。 ☐ 地球が赤道方向に膨らんだ同転だ円体である根拠を説明できる。	☐ 地球の形と大きさに関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 思② 主① 主② 主③
	第2節 地球の構造	☐ 地球内部の層構造を知り、状態や構成物質の違いを理解する。 ☐ 地球内部は構成物質の違いから、地殻・マントル・核に分けられることを理解する。 ☐ 地球内部は変形のしやすさによる違いから、リソスフェア・アセノスフェアに分けられることを理解する。	☐ 地球内部の層構造を、構成物質と変形のしやすさのそれぞれの観点から説明できる。	☐ 地球の構造に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主① 主③
	第2章 プレーートの運動 第1節 プレートテクトニクスと地殻変動	☐ プレーートの特徴と運動について理解する。	☐ プレーートの運動と境界の関係、運動に伴って起こる地殻変動を説明できる。	☐ プレートテクトニクスと地殻変動に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主① 主③

	□ プレート境界では大地形や地質構造が形成されることを理解する。 □ プレート境界やマグマの周囲で変成作用が生じることを理解する。	□ プレートの運動と境界の関係、運動に伴って起こる地殻変動を説明できる。		
第2節 プレート運動のしかた 第3章 地震 第1節 地震	□ 過去と現在のプレート運動の証拠について理解する。 □ プレート運動の原動力について理解する。 □ 地震発生のしくみを理解する。 □ 震度とマグニチュードの違いを理解する。 □ 地震波の伝わり方と、観測された地震波から震源を求める方法を理解する。	□ ホットスポットにより形成される火山・海山列とプレートの運動の関係を説明できる。 □ プレート運動の原動力について説明できる。 □ 地震発生のしくみを説明できる。 □ 地震波の性質や、震源決定の方法について説明できる。	□ ハワイ諸島の並びが過去のプレート運動の証拠になることに興味をもち、仲間と協働しながら積極的に学習に取り組もうとしている。 □ 3地点での震源距離を用いて、仲間と協働しながら作図によって震源の位置を決定しようとしている。	知① 思① 主① 主② 主③ 知① 思① 思② 主① 主③
第2節 地震の分布	□ 地震の震央分布とプレート境界の図から、地震とプレート運動の関係を理解する。 □ 日本付近で発生する地震の種類としくみを理解する。	□ プレート境界と地震の関係について説明できる。 □ 日本付近で発生する地震の種類を説明できる。	□ 地震の分布に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主① 主③

	第3節 地震災害	☐ 地震によって引き起こされる災害の種類と現象について理解する。 ☐ 「液状化現象」により、地震動により、密度が大きいものは沈み、密度が小さいものは浮かび上がることを確認する。	☐ 液状化現象や津波などの地震災害の発生原因を説明できる。	☐ 地震災害に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主① 主③
	第4章 火山 第1節 火山活動	☐ 火山噴火のしくみや火山噴出物について理解する。 ☐ 火山地形とマグマの関係を理解する。 ☐ 火山活動はプレート運動と関連があり、火山の分布はプレート境界に多いことを理解する。	☐ 火山噴火のしくみを説明できる。 ☐ マグマの発生や火山の分布がプレート運動に起因していることを説明できる。	☐ 火山噴火のしくみや、マグマの性質と噴火のしかたの関連に興味を持ち、積極的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 思① 主① 主③
	第2節 火成岩	☐ 火成岩を構成する鉱物とその特徴を理解する。 ☐ 火山岩と深成岩の構造や成因の違いについて理解する。	☐ 火成岩を構成する鉱物と、火成岩の分類について説明できる。	☐ 火成岩に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 思① 主① 主③

	第3節 火山がもたらす恵みと災害	☐ 火山が人間にもたらす恩恵や災害について理解する。 ☐ 火山災害に対する予測や防災の取り組みを理解する。	☐ 火山がもたらす恵みや災害について説明できる。 ☐ 火山災害に対する予測や防災の取り組みについて、ハザードマップなどを用いて説明できる。	☐ 火山防災マップを活用し、火山周辺にいる場合を想定し、急な災害時に自らのとるべき行動を仲間と協働しながらまとめようとしている。	知① 思① 主① 主② 主③
2 学 期	第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第1節 堆積作用と堆積岩	☐ 風化、侵食、運搬、堆積の一連の流れを理解する。 ☐ 堆積作用によって形成される地形や、その形成過程を理解する。 ☐ 堆積岩の形成過程と種類について理解する。	☐ 堆積作用によって形成される地形や堆積岩の形成過程について説明できる。 ☐ 土砂災害の種類と特徴について説明できる。	☐ 堆積作用と堆積岩に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 思① 主① 主③
	第2節 地層の形成	☐ 地層の重なりや変形のしかたから、地層の形成過程を推定できることを理解する。 ☐ 堆積構造から、地層の層序や堆積環境を推定できることを理解する。	☐ 地層の形成過程はどのような形で地層に表れているか説明できる。 ☐ 地層中の堆積構造から読み取ることができる情報を説明できる。	☐ 身近な地層に興味を持ち、地層が変形する前の様子や変形の過程に興味をもち、仲間と協働しながら主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主① 主③

	第2章 古生物の変遷と地球環境 第1節 化石と地質時代の区分	☐ 化石を用いて地層の年代や地層が堆積した環境を推定できることを理解する。 ☐ 地質年代の区分のしかたを理解する。	☐ 地球の歴史について化石からわかることを説明できる。 ☐ 地質年代の区分のしかたを説明できる。	☐ 化石と地質時代の区分に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 思① 主① 主③
	第2節 古生物の変遷	☐ 生物の進化と古生物の変遷について理解する。 ☐ 古生物の変遷と地球環境の変化との関係について理解する。 ☐ 人類の進化について理解する。	☐ 生物の進化と古生物の変遷について説明できる。 ☐ 古生物の変遷と地球環境の変化との関係について説明できる。	☐ 古生物の変遷に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主① 主② 主③
3 学 期	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第1節 大気の構造	☐ 大気の組成と気圧について理解する。 ☐ 大気の層構造と各層の特徴を理解する。 ☐ 雲ができるしくみを理解する。	☐ 大気の層構造と各層の特徴について説明できる。 ☐ 雲ができるしくみを説明できる。	☐ 大気の構造に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主① 主③
	第2節 地球全体の熱収支	☐ 地球は太陽放射を受け取るだけでなく、赤外線を放射していることを理解する。 ☐ 地球全体のエネルギー収支が釣りあっていることを理解する。 ☐ 温室効果のしくみを理解する。 ☐ 放射冷却が強まる条件を理解する。	☐ 地球のエネルギー収支の観点から、地球が太陽から受け取る熱の行方を説明できる。 ☐ 温室効果のしくみを説明できる。	☐ 地球が受ける太陽放射や地球の熱収支に興味を持ち、積極的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主①

	第2章 大気と海水の運動 第1節 大気の大循環	☐ 地球が受け取る太陽放射エネルギーの量は緯度によって異なることを理解する。 ☐ 熱収支には緯度による不均衡があり、大気や海洋が低緯度から高緯度へ熱を輸送していることを理解する。 ☐ 低・中・高緯度それぞれに大気循環が存在し、各地域の気候を特徴づけていることを理解する。 ☐ 温帯低気圧の構造と、温帯低気圧による熱輸送について理解する。	☐ 大気の大循環が生じるしくみと、それがもたらす効果について説明できる。 ☐ 温帯低気圧のはたす役割を説明できる。	☐ 大気の大循環に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主①
	第2節 海水の運動	☐ 海水の組成と海洋の層構造を理解する。 ☐ 海洋表層に海流が生じるしくみと、海流が低緯度から中緯度への熱輸送を担っていることを理解する。 ☐ 海洋の鉛直方向の循環が生じるしくみを理解する。 ☐ 地球上の水の循環と、降水量と蒸発量の分布の特徴を理解する。	☐ 海流が生じるしくみと、熱輸送の観点から海流のはたす役割について説明できる。 ☐ 海洋の鉛直方向の循環が生じるしくみを説明できる。	☐ 海洋の鉛直方向の循環が生じるしくみに興味をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。	知① 思① 主①

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	体育
学年・類型	2 学年・全クラス	単位数	3
教科書	現代高等保健体育		
副教材	現代高等保健体育ノート		
科目目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて他力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。		
学習方法	第一体育館・第二体育館・グラウンド・25mプールなどの体育施設を活用し、多種多様な実技を行う。自己の課題(体力面・技能面・精神面)を改善・向上に向け取り組み、個人学習カードを活用して活動の見直しや振り返りを行う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①運動技能テスト・記録測定 ②発表会の内容	①グループノートや個人学習カードの内容 ②発表会の活動状況	①授業への取組状況 ②グループノートや個人学習カードの提出状況

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価	
知識・技能	40%
思考・判断・表現	30%
主体的に学習に取り組む態度	30%

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	体づくり運動 体力を高める運動 ラジオ体操第2 スポーツテスト	☐ 体力を高める運動のしかたについて理解し、実践できる。 ☐ ラジオ体操第2について効果を理解し、正しく、力強く行うことができる。	☐ 自己の体力課題を見つけ、体力向上に向け継続的に取り組むことができる。 ☐ 仲間と教え合いながらラジオ体操第2を覚え、自己の体を正しく動かすことができる。	☐ 仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。 ☐ 健康・安全を確保し、運動に主体的に取り組もうとしている。	知① 思① 主① 主②
	水泳 クロール・平泳ぎ	☐ それぞれの技術には効率的に泳ぐためのポイントがあることを理解している。	☐ 自己の泳ぎ方の課題を見つけ、学習した知識や技能を活用して課題への取り組み方を工夫している。	☐ 積極的に自己の泳ぎ方を分析し、仲間と教え合いながら取り組もうとしている。	
	体育理論 運動・スポーツの学び方	☐ 体力と技能の関わりとそれらを適切に高める必要性や、技能の型に応じた高め方があることを理解している。	☐ 効果的な学習の仕方について、自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見している。	☐ 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	主①
2 学期	選択球技 バスケット・バレー バドミントン・卓球 サッカー・ソフトボール	☐ 各種目の運動に関連した名称や運動の特性やルールについて理解し、体力向上に向け実践できる。	☐ 自己や仲間と協力しながら工夫し、課題解決に向け、効果的な運動の行い方や技術向上について取り組むことができる。	☐ 協力して準備や片付けをすることができる。 ☐ 球技の学習に主体的に取り組もうとしている。	知① 思① 思② 主① 主② 知②
	ダンス 現代的なリズムダンス フォークダンス 創作ダンス	☐ 選択したダンス特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる。	☐ 自己や仲間の動きや表現を分析して、良い点や修正点を指摘することができる。	☐ 仲間の表現や踊りを認め合うなど、互いに共感し高め合おうとしている。	
	陸上競技 長距離走	☐ 持続的な体力向上の方法について理解し、運動を実践できる。	☐ 自分に適したスピードを見つけ、課題を持って取り組んでいる。	☐ 自己の記録に挑戦し、積極的に走ろうとしている。	
3 学期	陸上競技 長距離走	☐ 持続的な体力向上の方法について理解し、運動を実践できる。	☐ 自分に適したスピードを見つけ、課題を持って取り組んでいる。	☐ 自己の記録に挑戦し、積極的に走ろうとしている。	
	体育理論 運動・スポーツの学び方	☐ 運動やスポーツの安全で効果的な学習の仕方について理解している。	☐ 健康・安全の確保の仕方や、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。	☐ 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	主①
	選択球技 バスケット・バレー バドミントン・卓球 サッカー・ソフトボール	☐ 各種目の運動に関連した名称や運動の特性やルールについて理解し、体力向上に向け実践できる。	☐ 自己や仲間と協力しながら工夫し、課題解決に向け、効果的な運動の行い方や技術向上について取り組むことができる。	☐ 協力して準備や片付けをすることができる。 ☐ 球技の学習に主体的に取り組もうとしている。	知① 思① 主① 主②

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	保健
学年・類型	2年・全	単位数	1
教科書	現代高等保健体育		
副教材	現代高等保健体育ノート		
科目目標	個人及び集団の生活における健康安全管理についての理解を深め、健康に関する問題を自主的に解決する能力や態度を高めて、心身の調和的な発達を図る。 生涯を通じて健康課題に応じた自己の健康管理や環境づくりに寄与し、健康的な社会環境づくりを実践できる資質や能力を育成する。		
学習方法	教科書や副教材を活用し、知識をしっかりと身につける。さらにグループ学習や発表を通して意見交換を行い、思考力・判断力・表現力を身につけ知識を深める。自ら調べ学習に取り組み、知識の深化を行う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・現代社会と健康,安全な社会生活とその活用について,個人だけでなく社会生活について総合的に理解をしている。 ・現代社会と健康,安全な社会生活について,健康を保持増進する技能を身につけ,実践することができる。	・健康に関わる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し,合理的,計画的な解決に向けて思考し,判断することができる。 ・健康の保持増進について,その時々々の目的や状況に応じて他者に伝える力を身につけている。	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し,明るく豊かで活力のある生活を実践しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識技能の問題）	①定期考査（思考判断表現の問題） ②課題プリントの取り組み状況	①ノートや課題プリントへの取り組み,提出状況 ②授業への取り組み状況

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価	
知識・技能	40%
思考・判断・表現	30%
主体的に学習に取り組む態度	30%

学 期	学習内容	評価基準（到達目標B基準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	(1) 事故の現状と発生要因	☐ 事故の発生には、人的要因や環境要因などが関連していることについて、理解している。	☐ 様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。	☐ 安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	知① 思① 思② 主① 主②
	(2) 安全な社会の形成	☐ 環境の整備や個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解している。	☐ 事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。		
	(3) 交通における安全	☐ 自分自身の心身の状態や車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解している。	☐ 自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。		
	(4) 応急手当の意義とその基本	☐ 適切な応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、社会の救急体制の整備を進めることについて、理解している。	☐ 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。	☐ 応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	(5) 日常的な応急手当	☐ 基本的な応急手当ができる。	☐ 応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。		
	(6) 心肺蘇生法	☐ 人工呼吸、胸骨圧迫、AED の使用などが必要であること、及び方法や手順について理解したことを言ったり書いたりし、AED などを用いて心肺蘇生法ができる。			
2 学 期	(1) ライフステージと健康	☐ 思春期における身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解している。	☐ 生涯の各段階における健康について、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	☐ 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	知① 思① 思② 主① 主②
	(2) 思春期と健康	☐ 自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	☐ 思春期と健康について、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。		
	(3) 性意識と性行動の選択	☐ 結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。	☐ 結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。		
	(4) 妊娠・出産と健康	☐ 受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。			
	(5) 避妊法と人工妊娠中絶				

2 学 期	(6) 結婚生活と健康 (7) 中高年期と健康 (8) 働くことと健康 (9) 労働災害と健康 (10) 健康的な職業生	☐ 家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解している。 ☐ 加齢に伴い、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解している。保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ 労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ 職場の健康管理や安全管理とともに、積極的に余暇を活用することが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	☐ 中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ☐ 生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法について話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ☐ 健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ☐ 労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	☐ 労働と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
3 学 期	(1) 大気汚染と健康 (2) 水質汚濁、土壌汚染と健康 (3) 環境と健康にかかわる対策 (4) ごみの処理と上下水道の整備 (5) 食品の安全性	☐ 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染は、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることについて、理解している。 ☐ 環境基本法などの法律や、環境基準などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ 上下水道の整備、環境衛生活動は、学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	☐ 自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ☐ 環境と健康について、話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ☐ ごみ処理の現状や課題について、話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	知① 思① 思② 主① 主②

3 学 期	(6) 食品衛生にかかわる活動 (7) 保健サービスとその活用 (8) 医療サービスとその活用 (9) 医療品の制度とその活用 (10) さまざまな保健活動や社会的対策 (11) 健康に関する環境づくりと社会参加	☐ 食品の安全性について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ 食品衛生法に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ 行政及びその他の機関などから保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ 検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ 個々の医薬品の特性を理解した上で、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ 我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ☐ 一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることにについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	☐ 食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ☐ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ☐ 医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ☐ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ☐ 健康に関する環境づくりと社会参加について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ☐ ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。	☐ 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ☐ 様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ☐ 健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
-------------	--	--	---	---

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ
学年・類型	2年（文系）	単位数	4
教科書	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅱ（東京書籍）		
副教材	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅱ 本文学習ノート（東京書籍）		
科目目標	外国語によるコミュニケーションにおける考え方を働かせ、外国語による4技能5領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	コミュニケーションの場面に 応じた文の構成や表現を理解 している。 文法などの理解を基に、必要な 情報を聞き取る技能を身に付 けている。	自分の考えをまとめるために、 日常的な話題や社会的な話題 について、説明や助言、予定、 誘い、重要な情報、相手の主張、 意見、提案などの英語を聞き、 話し手の意図や詳細を的確に 捉えることができる。	自分の考えをまとめるために、 日常的な話題や社会的な話題 について、説明や助言、予定、 誘い、重要な情報、相手の主張、 意見、提案などの英語を聞き、 話し手の意図や詳細を的確に 捉えようとしている。
読むこと	語や句、文における強勢、イン トネーションや区切りを意識 して音読している。 文法や語彙、表現の理解を基 に、内容を読み取る技能を身に 付けている。	読み取った内容を基に考えを まとめるために、日常的な話題 や社会的な話題について書か れたさまざまなテキストジャン ルの英語を読み、情報や考え などの概要や要点、詳細、文章 の展開や書き手の意図などを 的確に捉えることができる。	読み取った内容を基に考えを まとめるために、日常的な話題 や社会的な話題について書か れたさまざまなテキストジャン ルの英語を読み、情報や考え などの概要や要点、詳細、文章 の展開や書き手の意図などを 的確に捉えようとしている。
話すこと [やり取り]	コミュニケーションの場面に 応じた適切な表現や方法を理 解している。 コミュニケーションの場面に 応じて、自分の考えを即興で話 して伝え合う技能を身に付け ている。	互いの考えを深めるために、日 常的な話題や社会的な話題に ついて、提案、説得、助言、説 明、討論などの場面で使われる 文を用いて、自分の考えなどを 整理し、情報や考え、気持ちな どを理由や根拠を示しながら 詳しく話して伝え合うことが できる。	互いの考えを深めるために、日 常的な話題や社会的な話題に ついて、提案、説得、助言、説 明、討論などの場面で使われる 文を用いて、自分の考えなどを 整理し、情報や考え、気持ちな どを理由や根拠を示しながら 詳しく話して伝え合おうとし ている。
話すこと [発表]	情報や考えなどを説明するた めの適切な表現や方法を理解 している。 イントネーションを意識して 話す技能を身に付けている。 事前の準備を基に、情報や考え などを話して伝える技能を身 に付けている。	発表の目的や対象、場面、状況 などに応じて、日常的な話題や 社会的な話題について、聞いたり 読んだりしたことを基に、説 得型プレゼンテーションやデ イバート、ディスカッションな どの場面で使われる文を用い て、情報や考え、気持ちなどを、 聞き手を引き付けながら論理 的に詳しく、わかりやすく話 して伝えることができる。	発表の目的や対象、場面、状況 などに応じて、日常的な話題や 社会的な話題について、聞いたり 読んだりしたことを基に、説 得型プレゼンテーションやデ イバート、ディスカッションな どの場面で使われる文を用い て、情報や考え、気持ちなどを、 聞き手を引き付けながら論理 的に詳しく、わかりやすく話 して伝えようとしている。

書くこと	情報や考えなどを説明するための適切な表現や方法を理解している。 参照した情報や自分の経験などを基に、情報や考えなどを書く技能を身に付けている。	レビューやプレゼンテーション原稿などのテキストジャンルや、目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを、複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書くことができる。	レビューやプレゼンテーション原稿などのテキストジャンルや、目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを、複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書こうとしている。
------	--	---	---

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト ③パフォーマンステスト	①定期考査 ②小テスト ③課題の内容 ④パフォーマンステスト	①課題の取組や提出 ②パフォーマンステスト

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ・ 知識・技能 40% ・ 思考・判断・表現 40% ・ 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? かつてニュージーランドに生息していた巨大な鳥、モアの絶滅の歴史を知るとともに、今まさに危機に瀕する動物について学び、保護のためにできることを考える。	☐ 助動詞＋完了形、不定詞の意味上の主語を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 絶滅危惧種の生息地や見た目の特徴などについて説明するための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 特定の絶滅危惧種について、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などを話して伝える技能を身に付けている。	☐ 特定の絶滅危惧種について知ってもらうために、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などといった重要な点を簡潔に整理して、聞き手にわかりやすく詳細を話して伝えている。	☐ 特定の絶滅危惧種について知ってもらうために、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などといった重要な点を簡潔に整理して、聞き手にわかりやすく詳細を話して伝えようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②
	Unit 2 Which sports can really be called sports? 年々人気を増すeスポーツの特徴を理解し、伝統的なスポーツとの違いや、スポーツをスポーツたらしめている条件とは何かを考える。	☐ 受け身の不定詞、助動詞 do による強調を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 興味を示したり断ったり、主張と根拠を伝え合ったりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 部活動について興味を示したり断ったり、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 部活動についての勧誘の場面で興味を示したり断ったり、ディベートの場面で、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合っている。	☐ 部活動についての勧誘の場面で興味を示したり断ったり、ディベートの場面で、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合おうとしている。	
	Speaking Review Task (Unit 1, Unit 2)		☐ Unit 1, Unit 2 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合っている。	☐ Unit 1, Unit 2 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしている。	

2 学 期	Unit 3 How do we choose what we eat? 多様な食習慣の背景にある文化や、地球環境への影響について知る。「食べるものを選択する」という視点から、レストランのレビューやコメントも取り上げる。	☐ 先行詞を含む関係副詞、否定語の倒置を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ レストランのレビューで用いられる語いや表現、評価づけしたり、感想を述べたりする適切な方法を理解している。 ☐ レストランをお勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価づけしたり、感想を述べたりしながら、詳細を書く技能を身に付けている。	☐ 友達にレストランを紹介するために、お勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価づけしたり、感想を述べたりしながら、事実と意見を区別して、詳細を整理して書いている。	☐ 友達にレストランを紹介するために、お勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価づけしたり、感想を述べたりしながら、事実と意見を区別して、詳細を整理して書こうとしている。	
	Unit 4 How have inventions changed history? ペニシリンの発明に至る経緯と、後世に与えた影響について理解する。さらに、現代のさまざまな発明品について、その意義を考える。	☐ 強調構文、関係副詞の非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 発明品について、事実と意見を説明するための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 発明品の世の中への影響について、見聞した情報を基に、事実と意見を区別しながら話して伝える技能を身に付けている。	☐ 特定の発明品について知ってもらうために、それが世の中にどの程度影響を与えたのかについて、見聞した賛成・反対の立場の意見や情報を基に、聞き手に納得してもらえるよう、事実と意見を区別しながら、詳細をわかりやすく話して伝えている。	☐ 特定の発明品について知ってもらうために、それが世の中にどの程度影響を与えたのかについて、見聞した賛成・反対の立場の意見や情報を基に、聞き手に納得してもらえるよう、事実と意見を区別しながら、詳細をわかりやすく話して伝えようとしている。	
	Speaking Review Task (Unit 3, Unit 4)		☐ Unit 3, Unit 4 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合っている。	☐ Unit 3, Unit 4 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしている。	
	Unit 5 What can we learn from traveling? 若者が旅行をすることの意義と問題点を踏まえて、進学・就職前に長期の休暇をとって見聞を広げる「ギャップ・イヤー」という仕組みへの賛否を考える。	☐ 接続詞＋分詞、完了不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 利点と欠点を踏まえたうえで、自分の意見を書くための適切な方法を理解している。 ☐ ギャップ・イヤーの普及について、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、自分の意見を	☐ ギャップ・イヤーの普及について、自分の意見を伝えるために、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、構成を意識して、複数のパラグラフで論理的に書いている。	☐ ギャップ・イヤーの普及について、自分の意見を伝えるために、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、構成を意識して、複数のパラグラフで論理的に書こうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②

		複数のパラグラフで書く技能を身に付けている。			
Unit 6 How do people's personalities affect their behavior? 内向的な人の特徴や、性格が振る舞いに及ぼす影響について理解する。自分自身やクラスメートの性格の分析を通して、多様性についても考える。	☐ 部分否定を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ アンケート結果について、分析結果を伝えるための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 性格に関するアンケートについて、クラスメートの回答結果を基に、割合を表したり解釈を付け加えたりして、話して伝える技能を身に付けている。	☐ プレゼンテーションの場面で、性格に関するアンケートについて、クラスメートの回答結果を基に、割合を表したり解釈を付け加えたりして、詳細を簡潔に整理して聞き手にわかりやすく話して伝えている。	☐ プレゼンテーションの場面で、性格に関するアンケートについて、クラスメートの回答結果を基に、割合を表したり解釈を付け加えたりして、詳細を簡潔に整理して聞き手にわかりやすく話して伝えようとしている。		
Speaking Review Task (Unit 5, Unit 6)		☐ Unit 5, Unit 6 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合っている。	☐ Unit 5, Unit 6 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしている。		
Unit 7 Who should we celebrate on our money? 日本の新紙幣の顔となる津田梅子や、アメリカの紙幣への掲載が計画されていたハリエット・タブマンについて知り、紙幣に取り上げるべき人物について考える。	☐ 受け身の進行形、be 動詞＋不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 相手の意見に応じるための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 紙幣に取り上げるべき人物について、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 紙幣に取り上げるべき人物について、グループの意見をまとめるために、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話し、詳細を伝え合っている。	☐ 紙幣に取り上げるべき人物について、グループの意見をまとめるために、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話し、詳細を伝え合おうとしている。		

	Unit 8 How can we find out if news is real or fake? フェイクニュースの歴史を知る。現在のインターネット上のフェイクニュースの見分け方についても学び、あるニュースの真偽を考察する。	☐ 複合関係副詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 事実と意見を分けて伝えるための適切な表現や方法を理解している。 ☐ ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ ニュースの真偽を判断するために、ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合っている。	☐ ニュースの真偽を判断するために、ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合おうとしている。	
3 学 期	Unit 9 What is important when choosing a job? 社会の変化を踏まえながら、今、仕事を選ぶ際に重要なことについて理解する。さらに、ある仕事を選ぶ理由や、その仕事への適性についても考える。	☐ 過去の習慣を表す表現を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 長所や経験を伝え合ったり、情報を詳しく聞き出しするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 就職面接を想定した場面で、仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考え、評価を即興で話して、詳細を伝え合っている。	☐ 就職面接を想定した場面で、仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考え、評価を即興で話して、詳細を伝え合おうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②
	Unit 10 How can we improve our school? 制服、カリキュラムなどの面から、学校を改善するための提案とそれに対する反論を理解する。最後に、自分たちの学校をよりよくするための提案を考える。	☐ 未来進行形、未来完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 自分の考えを理由とともに伝え合うための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 学校の改善について、自分の考えを理由とともに、即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 学校の改善について互いの意見を共有するために、自分の考えを理由とともに、即興で話して詳細を伝え合っている。	☐ 学校の改善について互いの意見を共有するために、自分の考えを理由とともに、即興で話して詳細を伝え合おうとしている。	
	Speaking Review Task (Unit 9, Unit 10)		☐ Unit 9, Unit 10 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合っている。	☐ Unit 9, Unit 10 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしている。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ
学年・類型	2年（理系）	単位数	3
教科書	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅱ（東京書籍）		
副教材	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅱ 本文学習ノート（東京書籍）		
科目目標	外国語によるコミュニケーションにおける考え方を働かせ、外国語による4技能5領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	コミュニケーションの場面に 応じた文の構成や表現を理解 している。 文法などの理解を基に、必要な 情報を聞き取る技能を身に付 けている。	自分の考えをまとめるために、 日常的な話題や社会的な話題 について、説明や助言、予定、 誘い、重要な情報、相手の主張、 意見、提案などの英語を聞き、 話し手の意図や詳細を的確に 捉えることができる。	自分の考えをまとめるために、 日常的な話題や社会的な話題 について、説明や助言、予定、 誘い、重要な情報、相手の主張、 意見、提案などの英語を聞き、 話し手の意図や詳細を的確に 捉えようとしている。
読むこと	語や句、文における強勢、イン トネーションや区切りを意識 して音読している。 文法や語彙、表現の理解を基 に、内容を読み取る技能を身に 付けている。	読み取った内容を基に考えを まとめるために、日常的な話題 や社会的な話題について書か れたさまざまなテキストジャン ルの英語を読み、情報や考え などの概要や要点、詳細、文章 の展開や書き手の意図などを 的確に捉えることができる。	読み取った内容を基に考えを まとめるために、日常的な話題 や社会的な話題について書か れたさまざまなテキストジャン ルの英語を読み、情報や考え などの概要や要点、詳細、文章 の展開や書き手の意図などを 的確に捉えようとしている。
話すこと 【やり取り】	コミュニケーションの場面に 応じた適切な表現や方法を理 解している。 コミュニケーションの場面に 応じて、自分の考えを即興で話 して伝え合う技能を身に付け ている。	互いの考えを深めるために、日 常的な話題や社会的な話題に ついて、提案、説得、助言、説 明、討論などの場面で使われる 文を用いて、自分の考えなどを 整理し、情報や考え、気持ちな どを理由や根拠を示しながら 詳しく話して伝え合うことが できる。	互いの考えを深めるために、日 常的な話題や社会的な話題に ついて、提案、説得、助言、説 明、討論などの場面で使われる 文を用いて、自分の考えなどを 整理し、情報や考え、気持ちな どを理由や根拠を示しながら 詳しく話して伝え合おうとし ている。
話すこと 【発表】	情報や考えなどを説明するた めの適切な表現や方法を理解 している。 イントネーションを意識して 話す技能を身に付けている。 事前の準備を基に、情報や考え などを話して伝える技能を身 に付けている。	発表の目的や対象、場面、状況 などに応じて、日常的な話題や 社会的な話題について、聞いた り読んだりしたことを基に、説 得型プレゼンテーションやディ ベート、ディスカッションな どの場面で使われる文を用い て、情報や考え、気持ちなどを、 聞き手を引き付けながら論理 的に詳しく、わかりやすく話し て伝えることができる。	発表の目的や対象、場面、状況 などに応じて、日常的な話題や 社会的な話題について、聞いた り読んだりしたことを基に、説 得型プレゼンテーションやディ ベート、ディスカッションな どの場面で使われる文を用い て、情報や考え、気持ちなどを、 聞き手を引き付けながら論理 的に詳しく、わかりやすく話し て伝えようとしている。

書くこと	情報や考えなどを説明するための適切な表現や方法を理解している。 参照した情報や自分の経験などを基に、情報や考えなどを書く技能を身に付けている。	レビューやプレゼンテーション原稿などのテキストジャンルや、目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを、複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書くことができる。	レビューやプレゼンテーション原稿などのテキストジャンルや、目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを、複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書こうとしている。
------	--	---	---

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト ③パフォーマンステスト	①定期考査 ②小テスト ③課題の内容 ④パフォーマンステスト	① 課題の取組や提出 ②パフォーマンステスト

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ・ 知識・技能 40% ・ 思考・判断・表現 40% ・ 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? かつてニュージーランドに生息していた巨大な鳥、モアの絶滅の歴史を知るとともに、今まさに危機に瀕する動物について学び、保護のためにできることを考える。	☐ 助動詞＋完了形、不定詞の意味上の主語を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 絶滅危惧種の生息地や見た目の特徴などについて説明するための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 特定の絶滅危惧種について、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などを話して伝える技能を身に付けている。	☐ 特定の絶滅危惧種について知ってもらうために、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などといった重要な点を簡潔に整理して、聞き手にわかりやすく詳細を話して伝えている。	☐ 特定の絶滅危惧種について知ってもらうために、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などといった重要な点を簡潔に整理して、聞き手にわかりやすく詳細を話して伝えようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②
	Unit 2 Which sports can really be called sports? 年々人気を増すeスポーツの特徴を理解し、伝統的なスポーツとの違いや、スポーツをスポーツたらしめている条件とは何かを考える。	☐ 受け身の不定詞、助動詞 do による強調を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 興味を示したり断ったり、主張と根拠を伝え合ったりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 部活動について興味を示したり断ったり、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 部活動についての勧誘の場面で興味を示したり断ったり、ディベートの場面で、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合っている。	☐ 部活動についての勧誘の場面で興味を示したり断ったり、ディベートの場面で、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合おうとしている。	
	Speaking Review Task (Unit 1, Unit 2)		☐ Unit 1, Unit 2 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合っている。	☐ Unit 1, Unit 2 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしている。	

2 学 期	Unit 3 How do we choose what we eat? 多様な食習慣の背景にある文化や、地球環境への影響について知る。「食べるものを選択する」という視点から、レストランのレビューやコメントも取り上げる。	☐ 先行詞を含む関係副詞、否定語の倒置を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ レストランのレビューで用いられる語いや表現、評価づけしたり、感想を述べたりする適切な方法を理解している。 ☐ レストランをお勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価づけしたり、感想を述べたりしながら、詳細を書く技能を身に付けている。	☐ 友達にレストランを紹介するために、お勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価づけしたり、感想を述べたりしながら、事実と意見を区別して、詳細を整理して書いている。	☐ 友達にレストランを紹介するために、お勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価づけしたり、感想を述べたりしながら、事実と意見を区別して、詳細を整理して書こうとしている。	
	Unit 4 How have inventions changed history? ペニシリンの発明に至る経緯と、後世に与えた影響について理解する。さらに、現代のさまざまな発明品について、その意義を考える。	☐ 強調構文、関係副詞の非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 発明品について、事実と意見を説明するための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 発明品の世の中への影響について、見聞した情報を基に、事実と意見を区別しながら話して伝える技能を身に付けている。	☐ 特定の発明品について知ってもらうために、それが世の中にどの程度影響を与えたのかについて、見聞した賛成・反対の立場の意見や情報を基に、聞き手に納得してもらえるよう、事実と意見を区別しながら、詳細をわかりやすく話して伝えている。	☐ 特定の発明品について知ってもらうために、それが世の中にどの程度影響を与えたのかについて、見聞した賛成・反対の立場の意見や情報を基に、聞き手に納得してもらえるよう、事実と意見を区別しながら、詳細をわかりやすく話して伝えようとしている。	
	Speaking Review Task (Unit 3, Unit 4)		☐ Unit 3, Unit 4で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合っている。	☐ Unit 3, Unit 4で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしている。	
	Unit 5 What can we learn from traveling? 若者が旅行をすることの意義と問題点を踏まえて、進学・就職前に長期の休暇をとって見聞を広げる「ギャップ・イヤー」という仕組みへの賛否を考える。	☐ 接続詞＋分詞、完了不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 利点と欠点を踏まえたうえで、自分の意見を書くための適切な方法を理解している。 ☐ ギャップ・イヤーの普及について、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、自分の意見を複数のパラグラフで書く技能を身に付けている。	☐ ギャップ・イヤーの普及について、自分の意見を伝えるために、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、構成を意識して、複数のパラグラフで論理的に書いている。	☐ ギャップ・イヤーの普及について、自分の意見を伝えるために、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、構成を意識して、複数のパラグラフで論理的に書こうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②

Unit 6 How do people's personalities affect their behavior? 内向的な人の特徴や、性格が振る舞いに及ぼす影響について理解する。自分自身やクラスメートの性格の分析を通して、多様性についても考える。	☐ 部分否定を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ アンケート結果について、分析結果を伝えるための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 性格に関するアンケートについて、クラスメートの回答結果を基に、割合を表したり解釈を付け加えたりして、話して伝える技能を身に付けている。	☐ プレゼンテーションの場面で、性格に関するアンケートについて、クラスメートの回答結果を基に、割合を表したり解釈を付け加えたりして、詳細を簡潔に整理して聞き手にわかりやすく話して伝えている。	☐ プレゼンテーションの場面で、性格に関するアンケートについて、クラスメートの回答結果を基に、割合を表したり解釈を付け加えたりして、詳細を簡潔に整理して聞き手にわかりやすく話して伝えようとしている。
Speaking Review Task (Unit 5, Unit 6)		☐ Unit 5, Unit 6 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合っている。	☐ Unit 5, Unit 6 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしている。
Unit 7 Who should we celebrate on our money? 日本の新紙幣の顔となる津田梅子や、アメリカの紙幣への掲載が計画されていたハリエット・タブマンについて知り、紙幣に取り上げるべき人物について考える。	☐ 受け身の進行形、be 動詞＋不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 相手の意見に応じるための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 紙幣に取り上げるべき人物について、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 紙幣に取り上げるべき人物について、グループの意見をまとめるために、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話し、詳細を伝え合っている。	☐ 紙幣に取り上げるべき人物について、グループの意見をまとめるために、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話し、詳細を伝え合おうとしている。
Unit 8 How can we find out if news is real or fake? フェイクニュースの歴史を知る。現在のインターネット上のフェイクニュースの見分け方についても学び、あるニュースの真偽を考察する。	☐ 複合関係副詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 事実と意見を分けて伝えるための適切な表現や方法を理解している。 ☐ ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ ニュースの真偽を判断するために、ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合っている。	☐ ニュースの真偽を判断するために、ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合おうとしている。

Unit 9 What is important when choosing a job? 社会の変化を踏まえながら、今、仕事を選ぶ際に重要なことについて理解する。さらに、ある仕事を選ぶ理由や、その仕事への適性についても考える。	☐ 過去の習慣を表す表現を用いた文の形・意味・用法を理解している。 長所や経験を伝え合ったり、情報を詳しく聞き出したりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 就職面接を想定した場面で、仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考え、評価を即興で話して、詳細を伝え合っている。	☐ 就職面接を想定した場面で、仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考え、評価を即興で話して、詳細を伝え合おうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②
Unit 10 How can we improve our school? 制服、カリキュラムなどの面から、学校を改善するための提案とそれに対する反論を理解する。最後に、自分たちの学校をよりよくするための提案を考える。	☐ 未来進行形、未来完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 自分の考えを理由とともに伝え合うための適切な表現や方法を理解している。 ☐ 学校の改善について、自分の考えを理由とともに、即興で話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 学校の改善について互いの意見を共有するために、自分の考えを理由とともに、即興で話して詳細を伝え合っている。	☐ 学校の改善について互いの意見を共有するために、自分の考えを理由とともに、即興で話して詳細を伝え合おうとしている。	
Speaking Review Task (Unit 9, Unit 10)		☐ Unit 9, Unit 10 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合っている。	☐ Unit 9, Unit 10 で学習した内容を基に、事実や自分の考えなどを自立的に話して伝え合おうとしている。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	英語	科目	論理・表現Ⅱ
学年・類型	2年	単位数	2
教科書	Vision Quest English Logic and Expression II Ace		
副教材	Vision Quest English Logic and Expression II Ace WORKBOOK		
科目目標	「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ、「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動を行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりすることができる能力を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付け、アウトプット活動でのペアワークやグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト ③パフォーマンステスト	①定期考査 ②小テスト ③課題の内容 ④パフォーマンステスト	①課題の取組や提出 ②パフォーマンステスト

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	Lesson 1 What is your future goal?	☐ [言語] 適切な主語を用いる：主語の選択や主語になる名詞句、形式主語の概念を理解し、適切な文を組み立てる。 ☐ [論理] 文と文をつなぐ：先行する文の内容を代名詞の置き換えや this で受けたり、つなぎの言葉を用いたりすることで、文と文の論理関係を適切に使用する。	☐ [話題] 将来の目標：子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解する。 ☐ [表現] 目標と達成[書くこと]：自分の目標と達成のために必要なことについて、文と文のつながりを意識して書いて伝える。	☐ [話題] 将来の目標：子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解しようとしている。 ☐ [表現] 目標と達成[書くこと]：自分の目標と達成のために必要なことについて、文と文のつながりを意識して書いて伝えようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②
	Lesson 2 What school events do you have?	☐ [言語] 適切な動詞を用いる：自動詞と他動詞を使い分けたり、群動詞を適切に用いたりして文を組み立てる。 ☐ [論理] パラグラフ（パラグラフの基本構成／列挙・順序）：パラグラフの基本構成を学び、列挙・順序のパターンを用いた論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。	☐ [話題] 学校生活：学校で新しい友達を作る方法について書かれた文書を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解する。 ☐ [表現] 好きな学校行事[書くこと]：自分の高校の行事について紹介する文章を、パラグラフの構成に意識して詳しく書いて伝える。	☐ [話題] 学校生活：学校で新しい友達を作る方法について書かれた文書を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解しようとしている。 [表現] 好きな学校行事[書くこと]：自分の高校の行事について紹介する文章を、パラグラフの構成に意識して詳しく書いて伝えようとしている。	
	Lesson 3 Who is the best athlete?	☐ [言語] 時を表す：現在・過去・未来を表すために、適切な動詞の形や文の構造を用いる。 ☐ [論理] パラグラフ（例示・追加）：例示・追加のパターンを用いた論理的なパラグラフの構成やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。	☐ [話題] スポーツ：スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解する。 ☐ [表現] 好きなアスリートと業績[書くこと]：自分の好きなアスリートと業績について、パラグラフの構成に意識して詳しく書いて伝える。	☐ [話題] スポーツ：スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解しようとしている。 ☐ [表現] 好きなアスリートと業績[書くこと]：自分の好きなアスリートと業績について、パラグラフの構成に意識して詳しく書いて伝えようとしている。	
	Lesson 4 Is social media safe?	☐ [言語] 義務・必要・推量を表す：義務・必要・推量を表すために、助動詞を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。 ☐ [論理] パラグラフ（比較・対照）：比較・対照のパターンを用いた論理的なパラグラフの構成	☐ [話題] 情報時代：ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解する。 ☐ [表現] ソーシャルメディアの利点と欠点[書くこと]：ソーシャルメディアの利点と欠点の	☐ [話題] 情報時代：ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解しようとしている。 ☐ [表現] ソーシャルメディアの利点と欠点[書くこと]：ソーシャルメディアの利点と欠点の比較	

2 学 期	Lesson 5 How does overusing energy affect us?	やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。 ☐ [言語] 情報を加える (1) : 形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。 ☐ [論理] パラグラフ (原因・理由・結果) : 原因・理由・結果について述べる論理的なパラグラフの構成やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。	比較について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書いて伝える。 ☐ [話題] 環境問題 : エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。 ☐ [表現] エネルギーの使い過ぎによって引き起こされる問題 [書くこと] : エネルギーの使い過ぎによって引き起こされる問題について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書いて伝える。	について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書いて伝えようとしている。 ☐ [話題] 環境問題 : エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解しようとしている。 ☐ [表現] エネルギーの使い過ぎによって引き起こされる問題 [書くこと] : エネルギーの使い過ぎによって引き起こされる問題について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書いて伝えようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②
	Lesson 6 What are some culture differences?	☐ [言語] 情報を加える (2) : 関係代名詞や関係副詞を用いた文の構造を理解し、文を組み立てる。 ☐ [論理] 主張や理由の根拠を示す : 主張や理由の根拠となる情報を示し、資料や他者の言葉の引用や出典を表す表現を適切に用いて、書いて伝える。	☐ [話題] 文化 : 異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解する。 ☐ [表現] 訪れたい国と文化 [書くこと] : 訪れたい国とその国の文化について、自身の主張や理由の根拠を示して、詳しく書いて伝える。	☐ [話題] 文化 : 異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解しようとしている。 ☐ [表現] 訪れたい国と文化 [書くこと] : 訪れたい国とその国の文化について、自身の主張や理由の根拠を示して、詳しく書いて伝えようとしている。	
	Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English?	☐ [言語] 情報を加える (3) : 形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。 ☐ [論理] リーディングの要約 : 精読と多読の2つの読解方法について書かれた記事を読んで、文章全体の構成と要点・要約をまとめる手順を理解する。	☐ [話題] 言語教育 : 第二言語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。 ☐ [表現] 第二公用語としての英語 [書くこと] : 日本の第二公用語としての英語の導入の賛否に関する記事を読んで、文章全体の概要と構成を理解し、まとめる。	☐ [話題] 言語教育 : 第二言語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解しようとしている。 ☐ [表現] 第二公用語としての英語 [書くこと] : 日本の第二公用語としての英語の導入の賛否に関する記事を読んで、文章全体の概要と構成を理解し、まとめようとしている。	

Lesson 8 Is Japan open enough?	☐ [言語] 情報を伝える：相手に情報を伝えるために、直接話法、間接話法、また様々な伝達表現を用いて適切な文の形や構造を組み立てる。 ☐ [論理] リスニングの要約：日本の教育制度の目標について話されるプレゼンテーションを聞いて、文章全体の構成と要点・要約をまとめる手順を理解する。	☐ [話題] 社会：日本の社会の問題点について書かれた文章を読んで、直接話法と間接話法を用いて表した文の構造を理解する。 ☐ [表現] 日本の社会[話すこと（やり取り）]：職場の観点から考えた日本の社会に関するプレゼンテーションを聞いて、全体の概要と構成を理解し、まとめる。また、日本の社会をより公平で寛容にする方法について、ペアやグループで議論する。	☐ [話題] 社会：日本の社会の問題点について書かれた文章を読んで、直接話法と間接話法を用いて表した文の構造を理解しようとしている。 ☐ [表現] 日本の社会[話すこと（やり取り）]：職場の観点から考えた日本の社会に関するプレゼンテーションを聞いて、全体の概要と構成を理解し、まとめる。また、日本の社会をより公平で寛容にする方法について、ペアやグループで議論しようとしている。
Lesson 9 What if you were rich?	☐ [言語] 条件と仮定を表す：条件や仮定を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。 ☐ [論理] スピーチ[話すこと（発表）]：スピーチの構成や伝え方を意識して、自分の考えや主張を話して伝える。	☐ [話題] 願望：もし億万長者になったら、何をするかについて書かれた文章を読んで、仮定の概念と文の構造を理解する。 ☐ [表現] 想像上の状況[書くこと]：宝くじが当たり、大金を手にしたらという仮定の状況を想定し、自分の考えや主張をまとめたり、クラスメートと話して伝え合ったりして、スピーチの原稿を作成する。	☐ [話題] 願望：もし億万長者になったら、何をするかについて書かれた文章を読んで、仮定の概念と文の構造を理解しようとしている。 ☐ [表現] 想像上の状況[書くこと]：宝くじが当たり、大金を手にしたらという仮定の状況を想定し、自分の考えや主張をまとめたり、クラスメートと話して伝え合ったりして、スピーチの原稿を作成しようとしている。
Lesson 10 How might AI affect our lives?	☐ [言語] 数量を表す：可算名詞と不可算名詞の使い分けや数量を表す表現、割合・数量の変化を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。 ☐ [論理] プレゼンテーション[話すこと（発表）]：プレゼンテーションの構成や伝え方を意識して、資料やデータなどの資料を提示しながら、自分の考えや主張を話して伝える。	☐ [話題] 科学技術：AI と共存する方法について書かれた文章を読んで、数量を表す表現の概念と文の構造を理解する。 ☐ [表現] AI と共に働くこと[書くこと]：AI と共に働くときに重要な事について、自分の考えやその根拠を示す情報を調べるなどして、クラスに話して伝えるために、プレゼンテーションの原稿を作成する。	☐ [話題] 科学技術：AI と共存する方法について書かれた文章を読んで、数量を表す表現の概念と文の構造を理解しようとしている。 ☐ [表現] AI と共に働くこと[書くこと]：AI と共に働くときに重要な事について、自分の考えやその根拠を示す情報を調べるなどして、クラスに話して伝えるために、プレゼンテーションの原稿を作成しようとしている。

3 学 期	Lesson 11 What is a healthy life?	☐ 【言語】 比較を表す：原級比較、比較級、最上級を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。 ☐ 【論理】 ディベート【話すこと（やり取り）】：ディベートのルールや手順、構成を理解して、チームと協力しながら、自分の役割に応じて、主張を話して伝え合う。	☐ 【話題】 健康：健康とストレスについて書かれた文章を読んで、比較を表す表現を用いた文の構造を理解する。 ☐ 【表現】 睡眠時間の賛否【書くこと】：「7時間以上の睡眠を取るべきか」という議題について、賛否の意見を考え、詳しく書いてまとめる。	☐ 【話題】 健康：健康とストレスについて書かれた文章を読んで、比較を表す表現を用いた文の構造を理解しようとしている。 ☐ 【表現】 睡眠時間の賛否【書くこと】：「7時間以上の睡眠を取るべきか」という議題について、賛否の意見を考え、詳しく書いてまとめようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②
	Lesson 12 What is important when we sell chocolate?	☐ 【言語】 否定を表す：否定を含む語や部分否定、準否定などの否定を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。 ☐ 【論理】 ディスカッション【話すこと（やり取り）】：ディスカッションのテーマについて、自分の考えや主張を述べたり、グループのメンバーの意見をまとめたりして、お互いに建設的な意見を話して伝え合う。	☐ 【話題】 ビジネス：商品の販売について書かれた文章を読んで、否定を表す表現を用いた文の構造を理解する。 ☐ 【表現】 チョコレートを販売する上で重要なこと【書くこと】：チョコレートを販売する上で重要なことについて、自分の意見や主張を考え、根拠となる資料を示しながら、グループで話して伝え合う。	☐ 【話題】 ビジネス：商品の販売について書かれた文章を読んで、否定を表す表現を用いた文の構造を理解しようとしている。 ☐ 【表現】 チョコレートを販売する上で重要なこと【書くこと】：チョコレートを販売する上で重要なことについて、自分の意見や主張を考え、根拠となる資料を示しながら、グループで話して伝え合おうとしている。	